

外部 評価 報告書

External Evaluation Report

- Review Report by the Visiting Committee -

平成25年3月



巻 頭 言

佐世保工業高等専門学校

校長 中 尾 充 宏

佐世保工業高等専門学校は、今をさかのぼること 51 年前、昭和 37 年 4 月に九州地区で唯一つの国立高等専門学校第 I 期校として設立されました。創立以来既に半世紀を超え、我が国産業界を支える 7,000 名におよぶ卒業生を輩出してまいりました。この間、社会、特に産業技術の世界は当時想像もつかなかった大きな革新・変貌を遂げており、当然のことながら佐世保高専の置かれた環境も大きな影響を受けてまいっております。本校は、このような時代の変化に適応すべく、これまでタイムリーなカリキュラム編成や学科の改組あるいは授業シラバスの変更等を重ねてまいりました。最近ではグローバル人材育成に向けた国際交流事業や、地域活性化を旨として地元産業界との連携活動に取り組むなど、その教育システムは絶え間ない変革と進化を遂げて今日に至っております。

平成 16 年 4 月以降は、独立行政法人国立高等専門学校機構の発足とともに、他の国立高専と同様、5 年を一期とする中期目標・中期計画を設定して運営にあたり、現在その第 2 期目を実施中であり、本年はその最終年度をむかえ、第 3 期目の中期目標・計画の策定を行う年となりました。さらに今年度は 7 年に一度の大学評価・学位授与機構による機関別認証評価も受審する予定となっております。こういった背景の中、このたび学外有識者の方々に本校の現状を知っていただき、忌憚のないご意見をいただくとともに、今後の学校運営についてご議論をお願いするために外部評価委員会を設置いたしました。去る平成 25 年 3 月 20 日には、そのメンバー全員にご出席いただき、本校の幹部教職員が佐世保高専の現状についてご説明申し上げ、貴重なご意見を賜りました。

本報告書では、その際に交わされた質疑応答と提言の内容を収録するとともに、その後にいただきました各委員からの評価表とコメントも掲載いたしました。また、本校の概要等説明資料（自己点検・評価報告書）を併せて添付いたしております。

ご多忙の中、本校の第 2 期中期計画実施状況を熱心にお聞きくださいと貴重なご意見をいただきました。山田 淳委員長をはじめ評価委員の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。賜りましたご意見を第 3 期中期計画の中で適切に反映していきたいと思っております。

目 次

巻頭言

I 外部評価委員会

1. 外部評価の概要	1
2. 外部評価委員名簿	2
3. 外部評価委員会日程	4
4. 本校出席者名簿	5
5. 議事	
(1)開会挨拶	6
(2)委員長の選出	6
(3)学校側からの概要等説明	7
(4)質疑応答及び提言	8
(5)講評	22
(6)閉会挨拶	30

II 評価委員による評価表

1. 評価点	32
2. 意見・提言	33

III 外部評価委員会資料(自己点検・評価報告書)

49

I 外部評価委員会

1. 外部評価の概要

(1) 目的

佐世保工業高等専門学校における教育研究活動等の状況について、外部の有識者による意見、提言を受け、本校の教育研究体制等の改善を目指すため、外部評価委員会を開催するものである。

(2) 外部評価の実施方法

外部評価は、各種資料及び口頭説明に基づき評価を受ける。

① 実地調査（外部評価委員会）

本校において、学内関係者からの口頭説明ののち、質疑応答及び意見交換の上、外部評価委員から講評を受ける。

② 外部評価委員による評価書の作成

上記の調査に基づき、外部評価終了後、外部評価委員に評価結果についての報告書を作成していただく。

(3) 評価項目

「佐世保高専の概要」を除く説明事項の6項目の運営状況及び取組みについて評価を受ける。

(4) 外部評価報告書の作成

外部評価委員会の結果及び外部評価委員から提出していただく評価結果をとりまとめ、「外部評価報告書」を作成し、公表する。

(5) 外部評価委員会委員

別紙のとおり（9名）

(6) 外部評価委員会開催日時

平成25年3月20日（水・祝） 13：30～16：30

(7) 開催場所

佐世保工業高等専門学校 一般教科棟1階 多目的教室

2. 外部評価委員名簿

区 分	職 名	氏 名
大学、高等専門学校等 高等教育機関の教員等 及び経験者	九州大学工学部長 (九州大学大学院工学研究院長、工学府長)	◎山田 淳
	長崎県立大学長	太田 博道
本校の所在する地域の 教育関係者	佐世保市中学校長会 会長 (佐世保市立山澄中学校 校長)	鴨川 純一郎
地方自治体の関係者	佐世保市長	朝長 則男
地域産業界の関係者	佐世保重工業株式会社 常務執行役員 佐世保造船所長	松瀬 茂雄
	長菱エンジニアリング株式会社 代表取締役社長	開 昭夫
	株式会社西日本流体技研 代表取締役社長	松井 志郎
報道機関の有識者	株式会社長崎新聞社 取締役 佐世保支社長	池本 仁史
本校卒業生の代表者	佐世保工業高等専門学校同窓会 会長	馬場 九洲夫

(外部評価実施要項順 敬称省略)

注) ◎印は委員長



山田委員長



左から松瀬、朝長、鴨川、太田各委員



左から開、松井、池本、馬場各委員

3. 外部評価委員会日程

1. 日 時： 平成25年3月20日（水・祝） 13：30～16：30

2. 場 所： 佐世保工業高等専門学校 一般教科棟1階 多目的教室

3. 次 第

時 刻	摘 要	備 考
13：30～	開会 ○校長挨拶（趣旨説明） ○外部評価委員紹介 ○学校側出席者紹介 ○配付資料確認	
13：40～	○議事 1. 委員長の選出 2. 概要等説明 （1）佐世保高専の概要について （2）学生（本科）の教育について （3）専攻科の教育について （4）学生指導・生活指導について （5）学生の寮生活について （6）社会との連携について （7）広報活動について	〔説明者〕 校長 教務主事（副校長） 専攻科長 学生主事 寮務主事 校長補佐（地域連携担当） 校長補佐（広報担当）
15：00～	休憩	
15：10～	3. 質疑応答及び提言	
16：10～	4. 外部評価委員による講評	
16：28	閉会	
16：30	校長挨拶 散会	

4. 学校側出席者名簿

所 属 等	氏 名
校長	中尾 充宏
副校長（教務主事）	須田 義昭
学生主事	田崎 弘章
寮務主事	渡辺 哲也
専攻科長	下野 次男
校長補佐（地域連携担当）兼 地域共同テクノセンター長	川崎 仁晴
校長補佐（広報担当）	福田 孝之
機械工学科長	小原 彰
電気電子工学科長 兼 教育システム点検・改善委員長	南部 幸久
電子制御工学科長 兼 情報処理センター長	中村 嘉男
物質工学科長	長田 秀夫
一般科目長 兼 特別支援教育コーディネーター	松尾 秀樹
技術室長	川下 智幸
図書館長	須田淳一郎
学生相談室長	森 保仁
キャリア教育支援室長	志久 修
事務部長	大島 秀樹
総務課長	宮成 隆明
学生課長	浦口 健一



5. 議事

(1) 開会挨拶

【中尾校長】

佐世保高専の中尾でございます。

本日はお忙しい中、また足元の悪い中、ご参集頂きまして心からお礼申し上げます。また、お彼岸の中日でお休みであるにもかかわらず皆様にご足労をおかけしましたが、皆様お忙しい方ばかりで、どうしてもこの様な日にしか設定できなかったことを深くお詫び申し上げるとともに感謝致します。

この外部評価委員会の意義ですけれども、これはご存じのように、私ども高等教育機関を含め公的な機関はすべて、その運営が適切に行われているかどうか外部の目で見て評価するというのが最近の傾向でございます。特に法人化後、高専は平成16年に独立行政法人国立高等専門学校機構にまとめられまして、その傘下に51高専があるわけです。独立行政法人には中期目標・中期計画というものがございまして、それに基づいて運営の計画を立てて取り組むという事でありまして、

私どももその評価につきましては、自己点検・評価、外部評価、機関別認証評価などいろいろな評価を受けてきております。

本校は、平成16年の法人化後、最初の機関別認証評価は平成18年度に受審し、今度平成25年度に2回目の評価を受けます。それに先立って中期目標・中期計画が実際に計画どおりに実践されているかという事を確認する。そのチェックポイントとして外部評価を行っております。

今日は、委員の皆様には私どもの運営状況を、資料・プレゼンテーションによりご説明をし、ディスカッションを通してご意見・ご助言をいただき、次の目標に向けての糧とさせていただきたいと思っております。不完全なところがあればご指摘をいただき、良いところがあれば伸ばしていこうと思っております。

評価委員の皆様のご意見の忌憚のないご意見を頂戴いただければ有難いと思っております。

以上、簡単ではございますが私の挨拶に代えたいと思っております。本日はどうぞ宜しくお願いいたします。

(2) 委員長の選出

委員の互選により、山田委員（九州大学工学部長）を委員長に選出した。



(3) 学校側からの概要等説明

質疑応答に先立ち、本校関係者からプレゼンテーション資料を用いて、佐世保高専の概要及び運営状況について次のように説明があった。

① 佐世保高専の概要

中尾校長より、高専制度及び高専教育の特徴、佐世保高専の沿革・組織、教育理念、進学率の推移および第2期中期目標・中期計画とその実施状況等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 49～P. 51)

② 学生(本科)の教育について

須田教務主事より、本科の教育目標、入学者選抜、教育課程、キャリア教育、特別支援教育、国際交流の取組み状況および卒業後の進路等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 52～P. 58)

③ 専攻科の教育について

下野専攻科長より、専攻科の位置づけおよび専攻科の特徴について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 59～P. 61)

④ 学生生活・学生指導について

田崎学生主事より、学生生活に関する指導・支援体制、学校行事、学生会組織、課外活動、学生指導および学生支援等の取組み状況について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 62～P. 65)

⑤ 学生の寮生活について

渡辺寮務主事より、学寮の役割、概要、入寮状況、教職員の支援体制、寮生会、施設・設備、安全対策、学寮改善等への取組み状況について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 66～P. 70)

⑥ 社会との連携について

川崎校長補佐(地域連携担当)より、地域共同テクノセンター設置の基本方針・組織、西九州テクノコンソーシアム(NTC)の体制・組織、テクノセンターおよびNTCの活動、地域社会との連携・協力等の取組み状況について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 71～P. 74)

⑦ 広報活動について

福田校長補佐(広報担当)より、広報活動、活動項目(広報印刷物、ホームページ運営管理、広報ビデオ、広報イベント、看板設置)等の取組み状況について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 75～P. 78)

(4) 質疑応答及び提言

【山田委員長】

それでは質疑応答に入りたいと思います。皆様いろいろと忌憚のないご意見を頂ければと思います。

高専の方から概要も含めて、教務関係、専攻科関係、学生関係、寮関係、地域連携、最後に広報関係について説明頂きました。それらを含めて、どのような項目でも結構です。

それでは順番に、まず太田委員からご意見等を頂ければと思いますが如何でしょうか。

【太田委員】

私、県立大学の学長という立場ですが、いろいろお話を聞いて評価するより見習わなくてはならないところもたくさんありまして感心致しました。

まず、最初に大きな所で質問があるのですが、入試の倍率が2倍というのはそんなに高い数字ではないと思うのですが、それでも優秀な学生が来ている。中学生を卒業する時にある程度人生の方向を決めるというのは大変な事だろうなという気もするのですが、ですから、その2倍の倍率というのは、かなりしっかりしたというか、なんとなく入ってくるという学生はほとんどいなくて、こうだと思って入ってくる学生が多いと考えてよろしいのでしょうか。

【須田教務主事】

そうです。

学生が入ってくるのにしっかり目的を持って入ってきているかということですが、やはり非常に工学に興味があるという事で、一日体験入学その他説明会に来た学生がほとんどですし、モチベーションは非常に高いと思います。

【太田委員】

わかりました。

しかしながら、本科の電気電子工学科と電子制御工学科ですか、ちょっと似たようなというか、これは中学卒業生に区別ができるのかなという心配があるのですが、途中で変わるという事は制度としてはできないのですか。

【須田教務主事】

1年生から2年生につきましては転科制度というのがありまして、電気電子工学科と電子制御工学科というのは非常に似ていますので、どちらも入ってきてそこで転科したいという学生はいないのですが、例えば物質工学科に入ったけれどもどうも自分は機械に向いているという事で機械工学科に入ったり、物質工学科に入ったけれども電気電子工学科に入ったという学生は数年に1回ぐらいはおります。

電気電子工学科と電子制御工学科は区別しにくいとは思いますが、どちらかという和我々の説明としましては、強電等を含んだ幅広い分野（エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報・通信分野）をやるのが電気電子工学科で、情報、コンピューター、ロボットなど、情報の方が好きであれば電子制御工学科がいいよという形で説明はしております。

どちらに入っても就職等では、電力系にも最近では電子制御工学科も行けますので、そんなに大きな違いはないかとは思いますが。

【太田委員】

本科から専攻科ですか、そこへは試験みたいなものがあるのですか。その進む時に二階建てではなくてクロスするという事は可能なのですか。

【須田教務主事】

今年から一専攻になりましたけれども、これまでもクロスしてももちろん結構でした。今年からは特にクロスで受けられるという形で、電気電子工学科の学生が情報系の方を受け、実際に合格したという事例があります。でも中は複合工学専攻の一専攻となっています。

【太田委員】

それから、3年生を終わった時点で、高校を卒業した資格というか大学受験はできるのですか。

【須田教務主事】

3年生を修了しますと、当然高卒の資格を得ますので、あまり多くはありませんけれども、高卒の資格を取って薬学部に行きたいという事で、少し前ですけれども、長崎国際大学薬学部に行った学生が1人います。あと小学校の先生になりたいという事でセンター試験を受けて教育学部に行った学生や、農業関係をやりたいという事で九州大学農学部に行った学生がいますが、頻繁に出ているわけではありません。

それと進路変更という事で、3年生修了時点で4年生、5年生はちょっと厳しいなという場合は、3年生で進路変更として、高卒の資格をとって大学もしくは専門学校に行くという学生も何人かいます。

【太田委員】

基本的には入学した学生はほとんど5年を、進学か就職かは別として、5年後きちんと修了してということですね。ありがとうございました。

【山田委員長】

ありがとうございます。

その点について、その他の方ご意見ございませんか。

専攻科が一専攻になったのは平成 24 年度からですね。そのへんは大変新しい試みだと思っておりますので、そのこの所で他の委員の方からご意見ございませんでしょうか。

【開委員】

長菱エンジニアリングの開です。

私もいくつか要望という形で挙げてきたテーマのひとつなのですが、産業界に入りますと、私、化学の出なのですが、実際の企業の中では機械も電気も使います。最近は特に I C T を使う、ですから、機械・電気・化学・I C T、機械の方も実際には微細なところの臨床というのはほとんど化学現象です。腐食にしても潤滑にしても、いろいろなことが総合的に関わりあっている。

ですから、それで専門だけでやっていけるかという、ほとんどやっていけない中で、専攻科でそういう試みをやられることについて非常に良い特色のある専攻科ができる。あるいはそういう事を売りにすると産業界から非常に期待、要求が出てくるのではないかなと期待しておりますのでよろしくお願いします。

【下野専攻科長】

専攻科長です。どうも御評価頂いてありがとうございます。

実は、本校は平成 15 年度から J A B E E 対応教育プログラムを実施しておりますけれども、その中で複合教育というものを導入して、各専攻から集まった学生がそれぞれの他の分野に関しても勉強するという事で非常に上手くいっているという事で、今回一専攻にしたということがひとつです。

それからもうひとつは、なかなか専攻科に入っても実際の特別研究の指導は学科の先生に依存するところがあったものですから、そのところを先程おっしゃられたように技術というものはもう学際化していますので、どの先生でも専攻科生を研究指導できるように、そういった事も含めて今回一専攻にしたという事でございます。

【山田委員長】

はい、ありがとうございます。

その他アトランダムで結構ですけどもございませんでしょうか。

【鴨川委員】

山澄中学校の鴨川と申します。

今日は、佐世保市の中学校長会の会長という立場で出席させていただいているのですが、本校からも毎年佐世保高専さんを受験させて頂いております。

そこでひとつ心配しているのは、佐世保高専を受験する子どもたちは理数系に能力を持っているというか、そういう子どもたちが多いのですけれども、時としてアスペルガー系の子どもがおります。要するに人とのコミュニケーションを取るのが苦手だというような子どもたちがいるのですけれども、今年度もそういう子どもたちが数名受けました。

1人は落ちて1人は合格させていただいたのですけれども、そういう子どもたちが入学後に、学生生活が始まった時に、人間関係を上手く作れているのかなというのが少し気になっているところです。

できれば、わかる範囲で結構なのですが、そういう子どもたちの学内での適応状況といえますか、あるいは、入って少し入学前の描いていたイメージと違って進路変更をした学生がいるのかどうか、そういったところがもし分かれば教えていただければと思います。

【松尾一般科目長 兼 特別支援教育コーディネーター】

特別支援教育を担当しております松尾です。

先生の所からも1人入学されるということで、先日お母さんと電話でお話ししたところですが、実際、高校に比べて高機能自閉症、アスペルガー系の子は多いと思います。

はっきり診断が付いている子は数名ですが、800人の学生のうち、そうではないかなという学生は大体20人から30人くらいはいると思います。だからクラスに2、3人は必ずいるということです。

同じアスペルガーと言ってもいろいろタイプがございまして、ケースバイケースです。簡単に言うと二極化と言いますか、能力的には本当に高くて勉学的にも非常に優秀な場合と、3年生に上がるのが精一杯というか、そういう二極化なところがございまして。

人間関係というのは生まれ持った特性ですので、なかなか改善が来ない面がございまして。私どもとしては、はっきり診断が付いて中学校から申し送りや保護者からの申し出がある場合は、支援しやすいのですが、そうではなくて親御さんも気付いておられない、自分たちが接して、もしかしてこの子はそうではないかという場合は、一応年3回、特別支援教育部会というのを開催しまして、長崎大学の岩永竜一郎先生にアドバイザーとして来ていただいて対応を考えております。

対応と言っても、一生懸命支援というより、見守りというのが大体主です。担任もしくは関係の教員が気掛けておくとトラブルになりにくいということです。

もし本人に困り感があればカウンセラーに繋いだり、コミュニケーションのスキルをアップしてくれる外部の専門家に来てもらっていますので、そういうところに繋いで、学校に来てもらって支援をしてもらっています。

本人に気が付かないとか、親御さんに気が付かない場合は、カウンセラーなどに繋いだ後、岩永先生に学校に来てもらって検査などをしてもらう場合もあります。その時点で気付くという場合もあります。

その子の特性に応じてどういう支援がいいかというのは、外部の専門の先生方のアドバ

イスに従って、出来る範囲のことをやっているという感じです。私どもも配慮、支援はしますけれども、学校側として過度の負担にならない程度にやっているということです。

多いのはやはり2年生、3年生になって実験のレポートがなかなか提出出来ないということが特性としてあります。それは学科の方で対応してもらっています。

先生がおっしゃったコミュニケーションが伸びていくかというのはなかなか厳しいところはあります。ただ、高専の良いところは、あまり周りが関わらなくてもなんとか5年間やっていけるというところはあって、それなりに就職出来る場合もありますし、かなり支援をしないと就職が厳しい場合もあって、ケースバイケースです。

実際、ある程度高専が対応しているということで、高専を選んでくださっている場合もあるように聞いていますが、胸を張って立派な支援をしていますというような段階ではないです。一応出来るだけの対応はしているというのが現状です。

【山田委員長】

その辺のところは特に最近では重要な課題になっていると思うのです。やはり学生が少しひ弱になって、精神的にちょっと外れるとなかなか応用力が効かないとか、私もそういう面で苦労はしているのですけれども、その辺について委員の方からご意見とかコメントとかございませんでしょうか。

今、相談員6名はカウンセリングの方はされていますか。

【森学生相談室長】

学生相談室長の森です。

相談員というのは、我々教員とあと保健室の看護師で6名体制です。室長とあと各学科から一般科目も含めて教員が1名ずつ出させていただいています。あとカウンセラーというのは外部から非常勤で2名来ていただいております。回数的に言うと月に3回ぐらい来ていただいているのですけれども、2人合わせて回数的には少ないと感じられるかもしれませんが、時間的に朝から夕方、長い時には6時過ぎぐらいまで入っていただきますので、毎回ビッシリ入っていただいているという感じです。

他高専では、だいたい放課後に来て頂くという場合が多いのですけれども、朝から来ていただくことで保護者対応もしっかり出来ている状況にあります。

【山田委員長】

そうですか、ありがとうございます。

それに関連する所なども含めてご意見ございませんでしょうか。

【池本委員】

長崎新聞の池本と申します。

私どもの企業でもそういう精神的な問題を抱えて長期休暇に入る人間が多いという問題を抱えておりまして頭を悩ませているのですが、高専さんではさらに年齢が低い、まだ成長段階の学生を抱えて、そのあたりの対応が大変だろうなというのはお察しします。

いろいろ今対策をとられているというお話を聞いたのですが、ひとつお尋ねしたかったのは、もともと本人が体の中にそういう問題を抱えているケースももちろんカウンセリングを希望する人にはあると思うのですが、入学後に、こちらは基本的に原則全寮制ということで、寮の中でも上下関係とかそういう問題で発生してくるケースというのはいかなるのでしょうか。

【渡辺寮務主事】

寮務主事の渡辺です。

寮の中での上下関係、クラブなどでもそうなのですけれども、最近の学生はあまり上下関係の厳しさが我々の頃と比べると無くなってきているように感じます。寮の中でも上級生からの指導はありますけれども、寮の中で特にそういう上下関係でストレスを感じているという例はほとんどないかと思っております。部屋も複数部屋で同級生同士の部屋ですので、そういった事はほとんど聞いておりません。

【池本委員】

わかりました。私が学生時代に寮生活を送りまして、かなり上下関係が当時厳しくて正直言いまして学業に影響する程の事が寮内ではあっていたと。それで、子どもたち、周りがわからない世代の人たちは、大人が見えないところで陰湿なやり方で、というのがあるのではないかなと思って、そういう事で悩みを抱えてしまって、学校生活に馴染めなくなってしまう子もいるのではないかなと思ってお聞きしました。

【山田委員長】

はい、ありがとうございます。関連してどなたかございませんか。

【鴨川委員】

関連なのですけれども、今日プレゼンを聞かせて頂いた時に、改善の所でカリキュラムの過密という所があったと思うのですが、本当にすごいなと思って聞いたんですけれども、学生がかなり忙しいんじゃないかと思うのです。

学生は、勉強もしないといけない、部活も必ず1つないし2つ入らなくてはいけない、そして寮の事もしないといけないという事で、最近はあまり上下関係は無いという事ですけども、そういう中で、入学した学生が5年生まで順調に育ち上がって、いわゆる途中でドロップアウトするような学生はいないのかなというのが気にはなっているのですが、その辺は数字的に見えないもので、もしわかればお聞かせ願いたいと思います。

【須田教務主事】

カリキュラムが過密で学生が忙しいということですが、専攻科は少し忙しいというのはありますけれども、本科の方はそれほどではないと思います、カリキュラム上はという事ですが。

しかし、進級につきましては、前回の外部評価委員会では九州内で一番の進級率（98%）ということをご報告しました。その時は留年者と退学者の合計が10人から多くて20人程度だったのですけれども、特例かと思うのですが去年は非常に多くの学生が留年したという事で、本校としてもこの留年者数の増加は問題と考えております。

去年は、数十人の学生が留年したという事が起こっております。これにつきましては、私含め校長も、やはり学生の勉強態度もしくは教員の指導の仕方に少し問題があるのではないかという事で改善をしないといけないと考えております。

以前は、キャリア教育支援室や学生相談室が、悩んでいる学生について非常にきめ細やかな教育をしているという事で、その効果があつて留年率、退学率が非常に少ないという事がPRポイントだったのですけれども、去年は進級率がガクンと落ちたという事で、教務としては今後また元に戻るよう改善していかないといけないなと思っております。

【田崎学生主事】

それから部活動の事もおっしゃっていたのですが、普通の例えば同じ学力レベルの高等学校に比べるとまず本校は早朝補習もございませんし、放課後の補習もございませんし、土日に模擬テスト等が入って、学生を束縛することはありませんので、そういう多忙さという事に関しては、逆に時間的な余裕というのは部活動などに関してはあると考えております。

そういう所では学生たちの自主自立を重んじています。あと寮祭、学校で行われる文化祭、体育祭は学生会等が行っているのですが、私が見る限りにおいても上級生が下級生に対して厳しい条件を出したり、仕事を課したりという事はなくて、一帯になってみんなで一緒に楽しそうにやっているなという印象を受けております。

【山田委員長】

はい、ありがとうございます。

それに関連してでも結構ですが、それ以外の方で何かご意見等がございませんか。例えば広報とか、社会連携とか含めて。では朝長委員。

【朝長委員】

少し質問させていただきます。

広報活動の中で市バスの問題をお話しされまして、非常に申し訳ないなと思っております。

すが、今年の平成 25 年 1 月に要望書を出されたという事として、11 月か 12 月にダイヤ改正の手続きを行ったばかりだったものですから、すぐには出来ないという話のようです。簡単なようなのですけれども、いろいろなものを変えないといけないという事で、ものすごく経費がかかるそうです。ですからダイヤ改正をやる時にしか、ご希望に応じられないという事ですので、市バスが赤字経営でなければ直ぐにやれるのかもしれないのですけれども、今は厳しい状況があるものですから、しばらくご猶予をいただけませんか、という事を必ず今日言うておいてくれと言われましたので、そういう対応をさせていただきたいと思います。

それから、先程の鴨川先生が中途退学率の話をお聞かせされたのですが、その比率が大体どのくらいになっているのか教えていただきたいと思います。

もう一つ、地元就職率が非常に少ないという事ですが、県内で 10%以下、佐世保市内という事になりますとおそらく 1%か 2%という感じだと思うのですが、どういう所でミスマッチがあるのかなという感じがします。学生さんに希望される企業がないという事なのか、あるいは条件にかなり格差があるのかなという感じもあるのですけれども、その辺の要因についてどのような分析をされているのか教えていただければと思っております。

それから、西九州テクノコンソーシアム（NTC）の件ですけれども、これにつきましては、地域共同テクノセンター等も作られまして、前より進化をした形になっているという事で、私も大変良い方向性になっているなどと思っております。ただし、以前は市長が会長をしているという時期があったようですが、現在校長先生に会長をしていただいております。官の役割というのが最近薄くなってきているのかな、というような感じがしています。

そういう面でもう少し官の役割というものが必要だよ、というようなご要望があられるのか、今までどおりでいいよということなのか、その辺もお聞かせ願えればと思っております。

それから、運営費交付金を見させていただいたのですが、その中で物件費が、平成 23 年度から少し減っている感じがいたします。それまでは 2 億 6 千万円から 2 億 7 千万円ぐらいあったようですが、平成 23 年度は 2 億 3 千万円になっているようですけれども、この辺国の財政事情という事もあるのかもしれませんが、設備の更新とか施設の更新とかそういうものがなさらなければならぬ所があるように感じるのですけれども、そういう面でのご不自由があられるのか、そういうところもお聞かせいただければと思います。

【須田教務主事】

進級率は 94%ぐらいで考えていいと思います。以前九州で一番よかった時は 98%でしたが、昨年はここ 5 年間で一番悪くて 94%でした。

【朝長委員】

中途退学の率は？

【須田教務主事】

中退率は、詳しい数が今わかりませんので、後でまたお知らせします。(調査の結果：中退率 約2%)

【中尾校長】

地元就職率が低いというのは、地元産業界の方、特に高専OBの方が関与している企業からもそういう声が高いです。これに苦慮しまして、例えば長期インターンシップなどもなるべく地元、今4年生に対して実施しておりますが、在学中に地元企業を知るという事も大事で、長期に行けると人間関係がある程度生じるので、学生に地元もいいなという感覚を持ってほしいと。そしてそのまま就職というのも一つの目的として考えています。

それから、学生が地元で育って来た人が多いのですが、やはり一度遠くに出てみたいという希望を持っています。Uターンを含めると10%は超えていると思います。ですから、そんなに低くはないかなと思いますが、いずれにしても上げていかなくてはならない。それとひとつは地元で魅力的な企業を育ててほしいと、育てるための貢献をこちらでNTCを通じてやっていきたいと思っています。

それから、関連しましてNTCの活動状況ですけれども、インターンシップで佐世保市からの支援ですが、商工部の方が関与しておられまして支援をいただいております。それから産業支援センターからも支援いただいておりますので大変感謝いたしております。もちろん十分な対応がとれるよう、いろいろな面で今後も連携強化をしていかなければならないと思っておりますが、本当によろしくお願ひしたいと思っております。

それと、運営費交付金や物件費が少ないという点、これは全国の高等教育機関どこも減っているのが現状だと思います。本校は第1期校がゆえに大変古い設備が多いです。しかし、幸いにして政権が変わったせいも、今回かなり根本的に更新できる予算措置が補正予算で組まれてきて、これは非常に感謝しております。また、耐震改修等も急速に進む傾向にありまして、新政権に期待するというわけではないのですけれども、なんとかなりそうな明るい兆しが見えます。

【朝長委員】

そういう予算措置がなされているという事であればいいのですけれども、ちょっと窮屈なのかなという感じがしたものですから、お尋ねさせていただきました。

それから、あとは合格者の比率なのですが、市内、県内、県外の比率というのがだいたいどれくらいなのかわかれば教えていただければと思います。

【須田教務主事】

市内はわからないのですが、本校の場合は、長崎県と佐賀県がほとんどで、長崎県が7

割、佐賀県が3割ぐらいで、長崎県の場合はほとんどが県北地域です。長崎市からは30名ぐらい来ていますので、やっと増えてきたのですが、70%の内の7割ぐらい（全体の約5割）が県北地区と考えてよく、ほとんどが地元から来ています。それでも壱岐、対馬など離島からも数名ずつ来ています。今年はその2県以外からは大分県から1名だけ合格しましたけれども、2つの県以外からは福岡県からたまに1名の合格者がいる程度で、地元の合格者が半数以上です。

【山田委員長】

ありがとうございました。その他ございませんでしょうか。

【松井委員】

就職の話なのですが、地元の我々中小企業としては、せっかく非常に優秀な学生が入学して、しかも丁寧に育成されている。そういう学生はやはり地域に残して地域で働いていただきたいという希望があるのですけれども。結局、その地域を学校教育というか、企業、それから学生、お互いに十分理解できていないのかなという所があります。

そのあたりを地域共同テクノセンターができたのと、それからいくつかのネットワークもありますので、そういう所を活用してどんどん地域のお互いの理解を深めていくという努力が今から必要かなと思います。

それと、Uターン人材の雇用という事で、雇用の促進の仕組みがホームページに出ているのですけれども。同窓会のホームページを見ていますと、その成果がこの程度ですと出ていたのですが、マッチングが5件しかなかったという事が書かれてあったのですが、いつの事かわからないのですが、そのあたりいかがなのでしょうか。

【中尾校長】

地域企業への貢献というのは大切であると、地域にも松井委員が経営されているような会社をはじめユニークな技術を開発されていて非常に良い企業があるので、たくさんの学生が行ってほしいと私どももそう思っています。

Uターンの促進については、確かにUターンは結構あるという事を先程申し上げましたけれども、それに対する組織的なUターンの仕組み、便宜を図る支援をやりたいと思っていますけれども、同窓会がそれに関与しているというような意味ですか。

【松井委員】

同窓会のホームページの中にこういう成果がありますよ、というのがありまして。具体的に言いますと、求人企業が82社あって、それから求職される方が75名おられてマッチングが大きいですというような事が書かれてあったのです。

【下野専攻科長】

6, 7年前に、「求人求職システム」というのを立ち上げたのです。しかしながらそれに関しては、例えば、Uターン人材がそのシステムに入って登録する、それから求人企業がこういった人材が欲しいという情報を登録するということです。

なかなかそういう個人情報が我々の所に上がって来ないものですから、ちょっと有効活用が出来ていないという状況で、あまり実績が上がってないという事だろうと思います。

【松井委員】

わかりました。

【川下技術室長】

それを積極的に展開しますと、職業斡旋等々の問題がございまして。学校が表に立って活動しているという状況は難しいところがございまして。そういう情報は提供していますけれども細かいフォローまではなかなか難しい立ち位置がございまして。ただ、個別の先生方が、地域の企業にUターン希望者を紹介して入れていくっていう事例は、表には出ておりませんが、かなりあるのではないかなと推測しております。

【山田委員長】

はい、ありがとうございます。では地元企業の方からよろしくお願いします。

【松瀬委員】

関連で、私、佐世保重工業の松瀬でございます。

私ども造船業なのでご存じのように非常に50年代から、どこの造船業も約10年から15年、人材を受入れなかった時期があります。

その前、私も卒業生ですが、30人強いたのですが、10人程度に減った歴史があります。その後、Uターン組に入っていただきまして、今は30名ちょっとになっているかと思っております。

そこで、私もお願いとして持ってきたつもりですが、卒業生のUターン組の情報を上手く学校も含めて活用できるようなシステムができないかなと、今言われたいろいろシステムがありそうですが、個人情報の問題等もあるかと思っております。

いずれにしても、地域経済に卒業生も残ってもらい、地元就職を高めるという意味では、もう少しその辺の活用を考えていただいて、同窓会とも提携してやっていけたらなという希望です。

【山田委員長】

ありがとうございます。では、同窓会会長さんからお願いします。

【馬場委員】

私、同窓会長の馬場です。

私が7回生ですので昭和43年に本校に入学したわけなのですからけれども、その時の授業料が月額800円、年間にして1万円なかったわけなのですからけれども、今はどのくらいでしょうか？

【須田教務主事】

23万5000円くらいだと思います。

【馬場委員】

先程いただいた学校要覧に決算書がありまして、大体25万円くらいかなと思って見ていたのですが、それからすれば父兄の負担が約25倍に跳ね上がっているわけです。

概要資料で寮費の負担を比較したら、私は昭和43年と44年にいましたので月額7,000円でした。それからすると約5倍なのです。

そういう所からしても、僕らの時は親から、国立だからお金がかからないと言われて行かされていたのですが、それからして若干授業料が高くなり過ぎているような気もするのですが、大学などと比べてどうなのでしょう。

【山田委員長】

はい大学も高くなっています。私が昭和46年ですか、入学した時は月1,000円だから年間12,000円でした。今は半年で25,6万円くらいです。ものすごく上がっているのです。ですから学生は、結構アルバイトをやっているというのが実情なのです。

これは非常に由々しきところがありますので、ただ経済的には非常に学生は厳しい状況であるという事なのです。それは高専も同じような状況ではないかなと思うのですが、相当上がっていますよね。

【須田教務主事】

はい、上がっています。

【馬場委員】

それに関連して、先程福田先生から、有田中学校から非常に受験者が多いというようなお話を聞いて、私有田町人で非常に誇りに思っているのですが、実はあまり言いたくないのですが、今有田町は基幹産業である窯業というか、焼物産業が非常に低迷化しております、それも受験生を多く生みだしているひとつの要因なのかなと思っております。

それと、あとひとつは、これは自慢話になりますけれども、私が、市町が管理します小中学校の教育委員を8年ほど勤めていたのです。その間に私、自分が佐世保高専の出身ですよと相当PRしまして、佐世保高専を出た人は企業にも勤められる、役所にも勤められる、どうかしたら陶芸家にもなれると、非常にフレキシブルな人材を育てている学校なのだという印象を与えたことは事実じゃないかなと思っております。

ちょっと話が横道に逸れましたけれども、国立高専であるからには、学費をもう少し軽く出来ないのかなと思います。僕等が行っていた時がうろ覚えなのですが、年間予算が約2億円程度と聞いていたのです。今のこの決算には人件費は入っていないということなのですが、人件費が入っていないから比較のしようがないのですが、2億円の中の800万円ぐらいしか学費収入はない、単純に考えたらですが。だから、相当額が国費で賄われていた、それなのに今は約2億円が授業料収入ですので本当に負担が大きくなっているなという気がいたします。

良い人材を集めるためには企業は給料をたくさん出す、学校は学費を少なくして済む、これが人材を集める基本ですので、幸いにして今の安部首相は教育を取り戻すと言っておられますので、そういった意味からも、学費を少し下げしてほしいというのが同窓会の会長としての意見です。

【山田委員長】

どうもありがとうございました。これは、校長先生からお答えするのはなかなか難しい問題ですね。

【中尾校長】

確かに、高専も学費を半分くらいにすれば大学に行かず高専にたくさん来るのだろうという事は容易に想像出来ますけれども、なかなかそれを、例えば自助努力や外部資金で賄うという事が出来るとすれば、それは非常に面白いものになるのでしょうかけれども、大学でもなかなかそういうことはやられていないですね。

【山田委員長】

大学もやはり同じような状況だと思います。

法人化になった以上、基本的には授業料は各所で設定はできることには今なると思うのですが、やはり現実問題非常に難しいですので、やはり全体のバランスがあって、あそこだけひとつ下げるとまた違うところからもプレッシャーがかかるし、逆に、では下げたから本当に経営を、例えば非常勤の職員とかいろいろなメンテナンスのところを全部こうやるよ、となるとなかなか難しいというのが現情だと思います。

本当は授業料は低いに越したことはないと思うのですが、やはりぎりぎりのところでどこもされているのが実情ではないかなと思います。

本当にそれは深刻な問題だと思います。外国の大学では、特に大学院などは授業料を払わなくていいとか、そういうような所もあるのですけれど、なかなか学部までというのは難しいですし、高専も同じような状況ではないかなと思っています。

【中尾校長】

授業料の免除ですね、半額免除や全額免除、そういう枠を増やしていく、そういった努力はやっていくべきだと思います。

【山田委員長】

はい、そうですね。

【朝長委員】

関連して公立高校の授業料とはどうなのですか。

【須田教務主事】

公立高校は、ちょうど本校の半分ぐらいで約 12 万円です。

本校は、高等学校等就学支援金としては授業料の半分しか出ないのですけれども、年収が 350 万円と 250 万円の間であればその半分、250 万円以下の家庭であれば私立高校と同じで倍出ますので、高校三年間については 23 万円ちょっとの分が就学支援金として出るという事になっております。また、制度が変わるかもしれませんが、現状としてはそういう形で、親の収入によって年収が 350 万円以下の家庭は一般の高校と同じで半分は親が負担しないといけない。

うちの売りとしては、専攻科においても本科と同じ授業料 23 万 5 千円なので、大学よりも半分ですみますよという点も一つの PR ポイントではあります。あと 4, 5 年生になると、授業料免除という制度がありまして、成績がある程度良くて、経済的に困っている家庭には授業料免除が申請できます。本校の申請者数は、全国の高専の中で非常に多い申請者数になっています。申請した学生の 7 割から 8 割は許可をもらっています。

(5)講評

【山田委員長】

ありがとうございます。皆様からのご意見をいただきまして、気が付いたら時間近くなっていて、大変ホットなご意見をいろいろありがとうございました。議論はつきないかもしれませんが、今までの議論あるいは高専からの紹介を含めて、総評といいますか講評をごく簡単に各委員からいただければと思います。1～2分程度で結構ですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

では太田委員からお願ひします。

【太田委員】

大変努力されていると思うのですが、専攻科からの進学率というのが上がってきているようにグラフで見えますけれども、本科5年を終わって大学に転入するという道もあるのですよね。それも増えてきているのですか。



【須田教務主事】

本科の方からの進学率というのは、先程校長からあったように、だいたい40%前後で毎年推移しています。専攻科が出来てからは4割程度で、学科による違いは少しありますが、物質工学科は多い時はだいたい6割ぐらいで、機械、電気電子、電子制御工学科はだいたい3割から4割の進学率になっております。

【太田委員】

わかりました。

それは、高専としての存在価値と言うと大げさですけど、特徴というか、あまり高いとかえって喜ばしい事ではないように思うのですが、その辺の考えをお聞かせください。

【須田教務主事】

校長からも答えられていますけれど、前校長も言われていました。

本校の進学率として50%以上は目標とせず、技術者として5割から6割は本科で就職して企業に行くというのを目標にしています。

いわゆる進学のパイパス校みたいにして、ある高専などは9割ぐらいが進学で東大に何名入るといふのを売りにしている学校もあるのですが、そういう事ではなく本校はやっていきたくて考えています。

【中尾校長】

補足いたしますと確かに進学率が高い、都会にある高専ほど高いという状況になっております。本校は3, 4割ですけれど。それで高専バイパス論とか、さらには一時、高専不要論が出てきた事もあるので、高い進学率が逆に仇となって。

しかし、その場合でも高い進学率の学校を代弁するわけではないのですけれども、それでも高専の意義があるというのは、要するに15歳から20歳までの独特な実践的技術者マインドを形成する。これが高専教育でないとできない。これは高校受験をやって大学に入った場合とは違うのです。違うマインドが形成される、これにはかなわない。という事では確保されているというように強調されますね。

【太田委員】

わかりました。

【山田委員長】

では鴨川委員お願いします。

【鴨川委員】

キャリア教育を5年間通してなされているという事で、義務教育の方も以前は生き方発見授業とかやっていたのですけれども、今はキャリア教育という事でやっています。

その中で、たとえば小学校、中学校で職場体験学習を一つの取り組みとしてやっているのですが、文科省が言われたのですが、職場体験学習は子どもたちの希望をとって60近い事業所をお願いをして行っ

ているのですけれども、本来それは子どもたちが行きたい事業所に行かせるのではないと、もともとその職業についての理解、職業観を作ってあげる、勤労観を高めていくとか、そういう目的でやるものなのだから、例えばパン屋さんになりたいからパン屋に行くとかそういうものではないというような指導があった事があるのですけれども、それとインターンシップは違うのだよという話があったのです。

インターンシップについては、まさにその企業に行きたいんだ、自分はこの仕事をしたという事で高校生、あるいは高専生も含めたところですが、そういう職場体験とインターンシップは根本的に違うのだという話を、以前指導があったのですけれども、そこらへんで先程のプレゼンを見せていただいた時に、けっこう工場見学というのがいろいろな所で、各学年で取り組まれてありましたけれども、これがどの程度学生が関わって、この企業に自分に行きたいんだというような所での工場見学をされているのか、ただ精神的



な工場見学をされているのかという所が、ちょっとわからないのですけれども。

それと、もう一つはこの工場見学をした後の学生の例えばレポートの提出とか、あるいはそれを実際に自分のこれからの就職に活かすとか、そこら辺の応用をお尋ねしたいのですけれども。

【志久キャリア教育支援室長】

キャリア教育支援室長の志久です。

佐世保高専でもインターンシップをやっているのですけれども、学生の人数に対して会社が受け入れてくれる人数がそこまで多くなくて、本来ならば学生が就職したい会社のインターンシップに行きたいのですけれども、実際はそうではなくて希望してない所にもたくさん行ってございまして、でもそれも仕事の体験をするという点では非常に有利になってございまして、インターンシップに行く前と行った後では学生もがらりと成長した姿が僕たちは感じる事が出来ます。

工場見学ですけれども、2年、3年、4年と行ってございまして、行き先というのは各教員が選んで行くようにしてございまして。行った後は必ず報告書なり発表会なりで報告をするという形になってございまして。さらにキャリア教育支援室では、佐世保重工業株式会社からキャリアコーディネーターとして松永先生に来ていただいております。その先生が指導をして、通常1年生は工場見学には行かないのですけれども、全学年から希望者を募って、すなわちモチベーションが高い学生で、工場をたくさん見たいという学生を募って、休みの時に近くの工場を周るというような事もやっております。

【鴨川委員】

ということは、職場体験の学習とインターンシップとの明確な違いはないということですか。

【志久キャリア教育支援室長】

はい、気持ちとしては学生の希望するところに行ってほしいというのが僕たちの希望なのですけれども、数がそこまでなくて最終的にはじゃんけんで決めたり、という事もあっております。いわゆる職場体験になる場合もありますということです。

【須田教務主事】

少ないのですけれども、インターンシップに行った企業に就職するという学生もけっこうおります。やはり4年生でインターンシップに行きますので是非来てくれと企業から言われて、インターンシップに行った企業を受けすぐ通るという形で。パーセンテージで言いますと2、3割くらいはインターンシップに行った企業に就職しています。

全員希望する企業へ行きたいと思うのですけれど、1社何名という制限がありますので、

そこで絞られます。以前は学生1人に対して2倍くらいの企業がインターンシップを受け入れていましたが、最近はなかなか受け入れる企業も大変なので、かなり断たれているというのが4年生の実情かと思います。それで仕方がないので希望ではないところに行く学生もいます。

それでも、先程志久先生が言われたように、行ってよかったなという事で、全国でも少ないと思いますけれども100%のインターンシップを4年生でやっているというのは九州の高専でもひとつくらいだと思います。これは本校の売りの一つです。

【鴨川委員】

関連で、キャリア教育の中で進んだ小中学校でやっている所は、アントプレナー育成というか起業家、企業じゃなくて事業を興す方の起業家精神を学ばせて、それで創造性を発揮した、例えば商品開発とかをやってみようかという事で、そういうのも含めたキャリア教育をやっている学校があるのです。

特に高専さんなどは複合型もの創り工学ですか、そこらへんで学生が将来自分は起業家になるのだとか、あるいは、こういうのももの創りでやっていきたいとか、あるのではないかと思います。だから、そこら辺をもっともっと盛り上げるような授業というのを組み立てて行っていただけないかなというお願いです。

【下野専攻科長】

起業家に関しては、専攻科の技術者総合ゼミというのがありましたけれども、あの中で佐世保市産業支援センターからインストラクターの方を招いて、講演をしていただくという事はありましたけれども、なかなか実際にものを創るとそういう所まではいっていないです。

【山田委員長】

はい、ありがとうございます。

朝長委員、全体的な総評をお願いします。

【朝長委員】

講評という事でございますので、私が感じた事を一言だけ言わせていただきますならば、5年制教育という特色を活用されながら良い教育をされているなという感じをもって話を聞かせていただきました。

今、中高一貫とかいう制度もあるのですが、中高一貫もある意味では良いのかもかもしれませんが、やは



り中学校から卒業して、それから高校と、そしてまた、それにつながる形の中での5年というのは、非常に私はいい制度ではないのかなという感じがしております。

中高一貫の学校も、どちらかというところ予備校化してしまうわけです。そうではなくて、やはり中学校を卒業して大学の一部の所までからめた所で伸び伸びとした教育が出来ておられる感じがいたします。職業教育も含めてできているという事にして、私は非常に高く評価をさせていただきたいと思っておりますし、日本の高校制度を全部変えていいのではないかなと思うぐらいにそんな感じを持って話を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

【山田委員長】

ありがとうございます。では松瀬委員をお願いします。

【松瀬委員】

いろいろお話を聞きまして、過去もそうですけれども、益々非常に丁寧な教育をされているなと思って、そう意味では逆に先生方が忙しくて、先生方のケアがいるのではないかと心配するぐらいでして、非常に勉強になったと思っております。

話は変わりますが、寮の話をお聞きして、5年生で入寮を希望する者がいるという事を聞いて、私の時代とはちょっと違うなと思って、これはやはり安いからなのか、寮の運営が上手くいっているのか、先生たちがいいのかどうなのかなと思って、後程お聞かせいただきたいと思います。

それから、技術士の取得もされているというのは、我々企業側からみると非常に分かりやすい指標で、非常にいい活動だと思っております。ぜひ他校との比較もして、このアピールポイントを維持していただきたいと思います。先程も言いましたように、中途採用等する場合に、ある指標になる資格というのが目安になりますので、非常にいい資格かと思っております。

それから、先程大学へのバイパスという話がありました。やはり私は専攻科を拡充、定員を拡充、さらに言うとおとなしい名前なので、いわれはいろいろあるのでしょうけれど、もう少しアピールするような名前にして、このラインを5年教育を7年教育にして伸ばして行くというのが高専の本来の姿ではないかなと私は思っております。提案させていただきます。ありがとうございました。



【渡辺寮務主事】

寮は安く行けるというのもあると思うのですが、本校は非常にクラブ活動を熱心にして

おりまして、その関係もあるかと思えます。あとは5年生で卒業研究もそうです。通学の時間を考えるとずっとやっていけるという事もあると思えます。そういう事を考えて残っているのが多いのではないかと思えます。

【松瀬委員】

はい、ありがとうございました。

【山田委員長】

では開委員よろしくお願ひします。

【開委員】

私は2点ほどお話をさせていただこうと思えます。

まず1点目は先程複合教育の話に感激したのですが、もう1つ教育目標の6に「豊かな教養・・・」とございます。実をいいますと高専を出ますと、おそらく半分以上の人が管理職、役職者だいたいそういう位置に立ちます。そうしますと単に技術バカではお客様対応とか、あるいは部下に対して自分の意志を伝えるのがなかなか難しいので、ぜひこの教養という事についてはいろいろな意味があると思うのですが、歴史であったり、哲学であったり、あるいは美術であったり、芸術であったり、ここをぜひ力を入れていただきたいというお願ひです。



全体としては、先程松瀬委員が言われたように、昔に比べると大変だなという印象を持つのですが、あえて言えばそういうことです。

それからもう1つは、やはり若い人には外に出て外を知って来いというのが、一般的かなと思えます。ただ、先程から出ていますように地元志向、地元にどう貢献するのだという一方の意見もあります。そういう中で我々中小企業はやはりどちらかという外で磨いてきたUターン組の方が戦力になります。ですから、是非統計的な数値としてUターン組まで含めた地元就職者の数値を出して、外部に対して説明をされると、地元はかなり戻ってきている人がいますので、そういう高専が地元へ貢献しているという事をアピール出来るのではないかと、新卒だけいきますとやはり非常に苦しいと思えます。特に若い人には外に出て行っていただきたいという気持ちもあります。そのへんの数値の取り扱いをされたいかなと思えます。

もう一つ、2つと言いましたが、3つあったのですが、どうしてこれだけ就職求人が多いか、ぜひそれを分析されて、そこを教育に逆に取り入れて頂きたい。それだけ高専卒を社会が求めている背景があるはずですから、そこを明確にしてやっていかれると先

程から出ています、高専7年生ではないのですけれども、もっともっとアピールして、特に女子学生が100%というのは今の社会では非常に考えづらい特殊な状況かと思っておりますので、そういう面も含めて社会にアピール出来る点ではないかと思っておりますので、そこもご一考願えればと思います。

【山田委員長】

ありがとうございました。それでは松井委員よろしく申し上げます。

【松井委員】

素晴らしい成果が上げられているという事で何も言う事は無いのですが、これを全部先生方で運営してやっていかれるという事を考えると非常に大変だろうと思います。ですがよく考えてみると高専の特徴として全寮制とか5年間一貫教育、くさび型カリキュラムというような所に特色があるのではないかと思います。こういう仕組みの中でお互いに勉強しあうという学生たちがうまく教育の中にシステムとして組み込まれているというような事を感じました。



こういうやり方は、佐世保高専独特のものなのか、一般的にそういう事をやられているのかという事をお聞きしたかったですけれども。これが私の感想とさせていただきます。

【山田委員長】

では池本委員申し上げます。

【池本委員】

学生生活も含めて良い意味での管理の下で学生たちが育っているという環境にあるなど、そういう所で育つ学生たちは、もちろん技術者としての即戦力で役に立つのでしょうし、社会人としても立派な人間が育っているのではないかなと思って感心しておりました。



2つだけ要望をさせていただきたいのですが、一つは、長崎県はご存じのように離島が多くあります。

離島にもっとPRをして、離島にいる学生を引き込むという努力もしていただきたい。

もう一つは、各委員からも出ましたけれど、地元就職、県内就職、これには是非こだわると意識を先生方、皆さんが持っていただきたいと思っております。将来の人口など考え

ると佐世保市も長崎市もそうですし人口はどんどん減っていくという数字がでています。それを止めるのはやはり県内に留まってもらうことが、私としては必要だと思いますので、その2点は強くお願いしたいと思います。

【山田委員長】

ありがとうございました。では最後に馬場委員お願いします。

【馬場委員】

同窓会長としての立場から、少し要望を言わせていただいて、私の意見にさせていただきたいと思うのです。

まず一つは、良い学生を集めるにはどうしたらいいか、それをもう皆さん考えておられるとは思いますが、そこに重点を置いてやっていただきたいと思います。

それからあと一つですけれど、さきほど開委員も言われたのですが、私も企業に就職した経験があります。その時に、私事を言わせてもらいますと、会社に入って自分の好きな仕事というのはまわってこないです。僕は有機化学が好きで微分積分が得意だったのですが、私がやらされたのは数学でも一番苦手な統計の仕事、それから無機の仕事です。だから、自分の得意な仕事がまわってきたら実力が発揮できるような人材ではなくて、なんでもこなせる、そういう人材が割りと高専から輩出されているのではないかなという気がするのです。進路のその後を調査していただきたいのですが、私のような者が結構いるのです。だから、高専教育の良い所はそこにあるのではないかなと思っているのです。

それから、さきほどから非常に就職の求人倍率が良いと言われてはいますが、これも、一回生から我々十何回生そこら辺が今評価されているわけですから、今後の評価はわからないです。そういった事もあって、是非いい卒業生を輩出していただきたい。これが同窓会長としての希望です。



【山田委員長】

どうもありがとうございました。

いろいろ本当にホットなご意見、コメント等ありがとうございました。

全体としては非常に素晴らしい教育をされているという事で、特に私が一点、スポーツが非常に盛んであるという事が、これは文武両道ではないか、



そういう精神であるのではないかなと思います。今後も継続的に、教育は継続が大事ですから、是非この線で益々発展していただければと思っております。

以上を持ちまして、議事を終わらせて頂きます。私の不手際で時間が数分オーバーしましたけれども、皆様ご協力をどうもありがとうございました。

(6)閉会挨拶

【中尾校長】

本日は長時間にわたりまして本当にありがとうございました。

日頃、教育分野にあたっておりますが、気が付かないことが随分あります。私どもも出来る限り学生のためと思っておりますが、本当に正しい方に行っているのかどうか、常に評価してフィードバックをかけないといけないとあらゆる事で思っています。

ただ、今日総括的にあげられた中に、こういう観点からみれば見習わなければならないという所がいくつもあります。良かったとみられている面もあれば、十分反映されていなかったという面もあります。

例えば、当然良い学生を受け入れなければならない、これは第一の事で、それはプレゼンの時にも大事だと複数の意見が出たと思います。これについても現状で満足してはいけないという事です。常に世の中は変わっておりますし中高一貫教育体制への対応策をどうするかという事もあります。インターンシップ等も良いと思っておりますけれども、いろいろ見方があるのだなと改めて聞かせて頂きました。また豊かな教養をつけておかないといけないと。それから地元就職につきましても、とりあえず地元に残ってさえくれば良いと思っておられるのかと思うと、必ずしもそうではないという意見もあるという事です。ただ地元を活性化するためには高専のミッションのひとつは地域活性化があると思います。最終的には地元に貢献しなければいけないと思います。

それから佐世保という名前を冠した高等教育機関は佐世保高専だけしかありません。大学は長崎県立大学を含めて数大学ありますけれども、みんな長崎が付いている。そういう意味でも佐世保高専は、創立の時から佐世保にお世話になっている。佐世保地区、特に県北地区の経済的にもですけど、精神的にも、産業としても活性化したいという願いであります。

とにかく教育機関である以上、いい学生を育てたいという事です。私も長年大学で奉職しております、高専というのは私も卒業生ではありますがそれほど真剣に考えてこなかった。校長として3年前に着任いたしまして、高専の先生方は良くやっているなど感心いたします。

教育システムを改めて見直して、その割には大学と並ぶ高等教育機関としての位置づけがまだ不十分ではないか、もちろん大学と競合関係にある部分というのはありますけれど

も、もっと高度なものを学びたいなら大学に編入なり、あるいは専攻科を経て大学院に進学するという道も十分開かれておりますし、高専も卒業生もそれを利用していただいで活躍していることであります。

今日いただきました沢山の評価、非常に私も鮮烈な思いで聞かせていただきました。また評価結果をメモにさせていただけると思いますが、今日のこの場の議論、皆様方の熱い、しっかりとした、こうやってくれよという思いは十分に受けたつもりであります。次の第三期の中期目標・中期計画に反映させる事も含めてこれを活かしていきたいと考えております。

本当に今日はどうもありがとうございました。

Ⅱ 評価委員による評価表

1. 評価点

項目	山田 委員	太田 委員	鴨川 委員	朝長 委員	松瀬 委員	開 委員	松井 委員	池本 委員	馬場 委員	平均
学生(本科)の教育について	5	4	5	5	5	5	5	4	5	4.8
専攻科の教育について	5	5	5	5	4	5	5	4	5	4.8
学生生活・学生指導について	5	5	4	5	4	4	5	5	3	4.4
学生の寮生活について	5	4	4	4+	4	4	5	5	4	4.3
社会との連携について	5	5	5	4+	4	4	4	4	4	4.3
広報活動について	5	4	5	4	3	5	4	4	4	4.2

評価点	評価基準
5	優れている
4	やや優れている
3	普通
2	やや劣っている
1	劣っている

2. 意見・提言

外部評価委員から委員会終了後、後日提出いただいた評価表のご意見・ご提言を次のとおり示します。

項目1. 学生(本科)の教育について

<意見・提言：山田委員>

- * キャリアGPをはじめ精力的な取り組みが行われた。成果を検証する必要がある。
- * 技術士など資格取得状況が顕著で、高い成果をあげている。
- * 教員が九州工学教育協会の賞を受賞しており、評価されている。
- * 国際化に向けて精力的な取り組みがなされている。TOEICスコアも上昇しており、英会話の機会をより一層増やすことにより、更なる向上を期待する。

<意見・提言：太田委員>

- * 中学への訪問、高専説明会等の回数が多いことは大変評価できる。
- * 中学のときの成績が比較的良い層が入学しているので、きちんと育てる責任も大きい。
- * 電気電子工学と電子制御工学が中学卒業生に本当に分かるか些か心配である。大学にも求められていることであるが、学科間の垣根を低くする工夫が必要であろう。
- * 「芸術文学賞受賞者による国語教育」とあるが、文学を味わうような教育と、理工系の分かり易く説明して相手を説得する文章を書く訓練は本質的に違うので、若干心配な面もある。
- * 就職に関しては求人数が多く、大学から見ると羨ましい限りである。
- * 英語は若いとき程力がつくので、どんどんやって欲しい。
- * 海外との交流も若いとき程大きな刺激になるだろうから、専門と少くらい分野が違ってもできるだけチャンスを多くすることが重要であろう。
- * 細かいことであるが、物質実験をしている学生の写真を見ると保護眼鏡をかけていない。安全と思っても着用させる方が望ましい。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 教育理念にもあるように「社会に貢献できる人材育成」と「複眼的視野をもつ人材育成」に職員一丸となり、ていねいな教育実践をされていることに、敬意を表します。
- * 今年とも、特別支援教育の充実をよろしく願います。
- * 入試対策の充実、くさび型カリキュラム、キャリア支援等に高専の強みを感じました。

<意見・提言：朝長委員>

- * 就職率、進学率共に優秀、その結果として、受験者数も確保できているし、企業の信頼度も高い。
- * 学生の優秀さは、教育の実績だと考える。

<意見・提言：松瀬委員>

- * 5年間の一貫教育を生かした早期専門教育の実績を十分に残されている。
当社の入社試験の結果から言うと、大学（院）生と比較して全く遜色がないか、もしくは平均的には上位に位置している学生が多いとの実感を持っていたが、改めて先生方の熱心な教育への取組みを確認できました。
- * 専門教育、基礎教育の面は申し分ないと思うが、その上に創造性と実践力を発揮できる教育に一層尽力願いたい。
- * その中で15才の中学時代に専門課程への進路決定にはリスクがやはり有り、転科制度の弾力的な運用に力を入れて欲しい。
またそのことが、学生から見て一つの安心感を覚えることとなり、学生の進路選択肢拡大につながる。
- * 海外の大学との交流、工場見学などは大変意欲的に取り組まれており、学生自身の幅を広げるために大いに魅力的な取り組みと感じる。
- * 資格取得（技術士）は、本人の技術能力を客観的に表す指標であり、大いにアピールされることを望む。また学生本人にとっても、卒業後実社会で大いに役立つと確信する。また、企業側としても採用およびその後の教育をする上で、分かり易い指標の一つとなる。

<意見・提言：開委員>

- * **中堅技術者の育成；**
製造業の現場では、総合職（大卒）と技能職（高卒）の間を取り持つ「理論も技術も分かるスペシャリスト」が不可欠。「三現主義」、「理論と実地の調和」に基づいた判断ができる人材を高専が供給することを期待。優秀な人材が大学に流れることについては、「高専卒のよさ」、「企業における高専卒の評価」が社会に理解されていなくて非常に残念。日本の社会の中に、大卒でもない、高卒でもない高等教育を受けた集団がいることが大きな力になることは間違いないと信じています。
- * **文化（芸術、歴史、哲学）教育の充実；**
教養の充実に大賛成です。歴史に学べ。何のために歴史を学ぶのかその意義を明確に。また、音楽、絵画等心に感じる情操教育。人生に潤いと生きるよりどころ。つまり教養が無ければ、お客様対応や部下の心に響く話や部下が困っているときの相談ができない。どうして教養や情操教育が必要かを理解させていただきたい。
- * **自分で学ぶ訓練；**
社会人になってから本当の学習がスタートする。学ぶ訓練（自ら情報を収集→アイディ

ア) 必須。夢、目標の大切さ。

<意見・提言：松井委員>

- * 技術者にとって自然現象は非常に重要であり、実験を重視しているのは大賛成です。
- * 進路を中学卒業時に決めさせるのは、無理があるように思います。一日体験入学は、進路を決めるのにいい方法と思います。
- * 5年間一貫教育、楔形カリキュラムも素晴らしいと思います。技術の勉強をしたくて入学した学生達の満足が得られると思います。
- * 中学の時に成績がよかった生徒を集めて、これだけ丁寧に育成していることを考えると、卒業後は地元に残って、特に中小企業で働いてほしいと思いますが、進学したいとか、都会の大企業に就職したいといった人生設計もあるでしょうから、強制はできないと思います。学校、学生、企業がお互いに、地域の事を知ることが必要かと思います。何か方法、機会があれば、Uターン人材も是非活用したいと思います。

<意見・提言：池本委員>

- * 中学校訪問などを積極的に展開し、優秀な生徒を集める努力がうかがえる。その中で、H24年度の高専説明会は長崎、佐賀両県の9地区で開いているが、本県内の離島、特に人口の多い五島市、対馬市での開催は検討されなかったのだろうか。離島は人口流出も激しく、経済的な理由で大学進学をあきらめる生徒も本土地区より多いのでは。そういう面で考えると、佐世保高専は寮費も安く、素晴らしい教育環境で高等教育が受けられる。保護者として、安心して子どもを預けられる環境であり、離島地区にもっとアピールしてほしい。
- * 卒業後の進路の面では、県内就職率が低すぎる。学生と企業とのミスマッチもあるだろうが、例えば「県内就職率25%」など具体的な数値目標を掲げて取り組んでほしい。

<意見・提言：馬場委員>

- * 卒業生の私だからこそ言えるのですが、中学卒業時(15才)に自分の進路を大きく決定づける高専への進学は大変難しいものが有るのではないかと思うが、その短所よりも長所の方が多いいということは、卒業生のその後の活躍からも見てとれると思う。私の経験からして、高専の5年間は本当にいい意味でのゆとり教育ではないだろうか。だから社会に出てからも活力が有るのだと思う。

項目2. 専攻科の教育について

<意見・提言：山田委員>

- * 3専攻を1専攻に改組するという、意欲的な取り組みが開始された。J A B E E認定プ

プログラムを含め、新しい取り組みの効果を期待する。効果をどのように検証するかについて、評価項目について早急に検討されること、年毎の推移を継続的に調査されることを望む。

<意見・提言：太田委員>

- * 複合工学専攻制度の特長が活きる教育ができれば、素晴らしいことである。
- * 学士取得率が事実上 100%であることは大変評価できる。
- * 学協会の発表数が学生の 1 学年の人数より多いことは、素晴らしい。
- * 進学と就職が相半ばしているが、ここら辺が妥当なところであろうか。
- * 教育への満足度調査で電気電子が他と比べて低いのが気になる。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 複合型もの創り工学のさらなる充実を期待します。
- * catch-up の昭和 40 年代から front-runner になった平成の時代。今後は flag ship 的な活躍を目指してほしいです。

<意見・提言：朝長委員>

- * 専攻科への志望者が多いこと、修了生の学士取得が 5 年間で 98.4%、この 2 年 100%は、高く評価できる。

<意見・提言：松瀬委員>

- * 専攻科については「1 専攻制」に改組されたことは、時代の要請に沿っていると感心している。
- * 学士取得状況を見ても大学以上に専門的・総合的な教育成果が上げられていると思う。
- * 課題は、やはり知名度の低さにある。
やはり高専教育の特色は、5 年間の一貫教育、早期の専門教育にあり、その上位に専攻科が位置し、その卒業生の質の高さおよび総合力の高さを社会にアピールし続ける努力が必要と感じる。

<意見・提言：開委員>

- * **機・電・化の総合力発揮：**
複合工学専攻は高専でしかできない理想の教育です。
企業では機・電・化の全ての知識が必要。他分野の学習の重要性を理解してほしい。
例えば、化学屋にとってプラント運転に携わる場合、設備は機械で構成され、電気で動力供給・制御されそれらの分野の知識なしにはできません。一方、機械屋さんにとっては、腐食、潤滑等マイクロ現象は全て物理・化学現象が関係している。

どの業種においてもICTによる効率化の追求は不可欠。これからの企業ではICTなしでは務まらない。少なくともICTアレルギーは払拭してほしい。

単にそれらの理論や実地を教える以前にどうしてこの分野の授業が必要かを認識してもらいまず関心を高めてほしい。

複合工学専攻であれば、もう少し定員を増やすことによってこのマルチタイプの人材が社会で評価されることによって高専の評価が一層高まるでしょう。

<意見・提言：松井委員>

- * 多種多様な進路があるのは、いいことだと思いますが、指導者の負担が大きくなるのが心配です。
- * 一専攻多コース制は、いろいろ試行された結果の結論だと思いますが、大賛成です。
- * 総合創造実験、演習なども興味ある教育方法だと思います。
- * 修了生のアンケートをみると、満足度が非常に高いし、申し分ないと思います。
- * 地域貢献として、長期インターンシップ、地域連携型の共同研究が提案されています。大変効果的なこととは思いますが、企業では守秘義務がありますし、時間も限られていますし、マッチングは簡単ではないと思います。何らかの工夫が必要になると思います。

<意見・提言：池本委員>

- * H24年度に3専攻制を1専攻・多コース制に移行しているが、その狙いをもう少し具体的にお聞きしたい。学生たちの評価も知りたい。
- * 修了生アンケートでは、「進路」についての満足度は高かったが、「教育」については中位評価の「3」も多かった。これをどう評価されているのか。

<回答>

- * 1専攻制への移行の狙い

従来の3専攻制では、各専攻の専門教育の体制が、専攻科縦割りであり、学際化の進展や地域との共同教育、学生の進路の多様化、あるいは教育研究分野の変化など、教育研究を取り巻く環境の変化に充分に対応できなくなっていた。例えば、社会的にも地域的にもニーズの高いメカトロ技術や環境・エネルギー技術などは、要素技術の専門家（教員）が各専攻にまたがっており、専攻科生の特別研究指導や専門教育が適切に効率よく行われているとは言えなかった。

これらの課題を解決するために、専攻科縦割りの専門教育から、完全に専攻科横断的な専門教育を行える教育研究体制にするために1専攻制に移行した。

学生の評価は、平成24年度からスタートしたばかりで1専攻制での修了生がまだ出ていないために今後待ちたい。

- * 修了生アンケートについて

「進路」についての満足度が高かったのは、ほとんどの学生が希望する進路に進むことができたためであると考えられる。

それに対して、「教育」についての満足度で中位評価「3」の学生が多かった理由として、専攻科入学時に期待した教育に対して実際の教育が必ずしも満足できるものではなかった学生が多かったためであると考えられる。昨年度の修了生は3専攻制での教育課程を修了しており、専攻別の満足度を見てみると、電気電子工学専攻修了生の満足度が低いことがわかる。専攻科に入学する学生は、本科よりもさらに高度な専門教育を期待している。それに対して、本校の電気電子工学専攻は、本科の電気電子工学科と電子制御工学科を合流させてできた専攻であり、カリキュラムが両学科を折衷した形になっているために、高度な専門教育を期待した学生には必ずしも満足できるものではなかったと考えている。

昨年度から開始した1専攻制では、4工学系に分けており、融合・複合的な教育と併せて高度な専門教育を行える教育課程になっている。

<意見・提言：馬場委員>

- * 専攻科といえば専門科目に特化した教育内容になりがちなイメージが有るが、複合工学という発想は大変おもしろい。というよりは現代社会が求める人材育成に非常に良くマッチしているのではないだろうか。会議で私も述べましたが、専門がそのまま生かせるのは稀で、総合的な知識が必要です。

項目3. 学生生活・学生指導について

<意見・提言：山田委員>

- * バレーボールをはじめとして、ラグビー、ソフトテニスで高い成績をあげている。文武両道と同様に、クラブ活動の活性化は学生を外向き志向に導く大きな要素であり、良い方向である。

今後一層の活性化を期待する。ただし、いじめなどの事態がおこらないように配慮されたい。

<意見・提言：太田委員>

- * クラブ活動が盛んであることは大変好ましい。
- * 一般の高校や大学に比べても年齢差が大きい学生同士が一緒にやる特徴を活かす工夫で、社会性の涵養も可能ではないかと考える。
- * 合宿での新入生オリエンテーションも先生方には大変だろうが、初めて会う仲間が多い学生にとって大事な行事であると思う。
- * 金沢工業大学の「夢考房」等を参考にすると、さらに課外活動の充実が図れるかもしれない。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 多岐にわたるこまやかな指導と支援を感じました。
- * カウンセリングの充実が図られているようですが、人数と件数を見る限りでは、1人の学生が3～4回受けているように思いますが、今後の支援の充実を期待します。

<意見・提言：朝長委員>

- * 体育部、文化部の活動が積極的に展開されている。特に体育会系の活動は、九州大会、全国大会でも優秀な成績を納め、競技力のみならず健康身体づくり、チームワークづくりによる人間形成に大きく役立っている。

<意見・提言：松瀬委員>

- * 学生指導については、先生方がきめ細かい指導をされており、礼儀正しい学生を育てられていると敬服します。
- * 課外活動を通じての学生時代の経験は、人格形成において非常に重要であり、全人教育の一環として上手く指導されていると感じる。
- * 一方、先生方の熱心な活動には感心させられますが、継続的な学生指導を進めるためにも、先生方の負担軽減の施策も必要かなと心配します。

<意見・提言：開委員>

*** 部活；**

採用時の面接で最初に聞く質問が「学生時代に勉学以外で最も注力したことはなんですか」ですが、大学卒も含めて「アルバイト」が一番多い回答です。企業側が一番期待しているのが「部活」であり、そこで学んだ「リーダーシップ」、「下積みの苦勞」及び集団行動です。部活で学んだ継続することの大切さ、友人は一生の宝物と思っています。その点、部活に対する指導が行き届いており、是非顧問の先生方も大変でしょうが、学生とのコミュニケーションの場として活用しつつ指導に当たって頂きたい。

*** しつけ；**

登校時の校門指導に挨拶運動、身なり指導とありますが、是非力を注いで頂きたい。恥ずかしながら、我社でもこの種の運動を若手の活動と実施していますが、会社のイメージに繋がるものと思っています。学校訪問したときに大学と高専の違いは、この点を一番感じます。どこの高専に行っても知らない人に対して声をかけてくれます。

<意見・提言：松井委員>

- * 課外活動は趣味を同じくする仲間の集まりと言えますし、勉強とは違った規律もあるし、重要だと思います。更に素晴らしい成績をあげていますし、申し分ないと思います。
- * 指導、相談などの組織も実際に活用され、利用されているので、効果があると思います。

- * 反面、指導の手が行きとどき過ぎているところがあるような気もします。

<意見・提言：池本委員>

- * 学生生活においては、学校行事も適度に行われ充実している。課外活動も熱心に取り組み、各種スポーツ大会で優秀な成績を収めている点も評価できる。
- * 授業料免除が、H20、21年度の180件程度から、H22年度以降は100件未満に減っている。免除対象となる条件のハードルが上がったのだろうか。経済的な問題を抱える保護者にはありがたい制度であり、学校にとっては収益減につながり難しい面もあるだろうが、今後も充実を望みたい。

<回答>

平成22年度以降に授業料免除申請者及び授業料免除者の数が激減した理由は、平成22年度から高等学校等就学支援金の制度が始まり、本科1年生～3年生は授業料免除制度の対象外となったためです。

<意見・提言：馬場委員>

- * ほぼ男子校だった私の時代にくらべ、現在の男女共学状態。沖新の、町から隔離されたような環境。ずい分様子が変わったと思う。今年卒業を前にした学生が自殺におよんだということ。本当に今の学生を心の面からの学生指導は非常に大切であるし、又難しいものであると思う。
強い心を持った人間に育てあげるのも15才から預かる学校の責任は重いと考える。

項目4. 学生の寮生活について

<意見・提言：山田委員>

- * 若年層における団体生活は、人間関係やコミュニケーションなどの人間性向上に極めて効果的である。専攻科の学生も入寮できるよう、予算の獲得に努力されることを期待する。

<意見・提言：太田委員>

- * 寮生活は自主自立と協調性を育むためにも、規則正しい生活と勉学のためにも役に立つと思う。
- * 入寮免除者が30%いることは、その意味で好ましいことではないように思う。
- * 学業成績、留年、退学、あるいは逆に就職・進学と寮生活の関連の有無を調べ、寮生活がプラスに作用しているなら、さらに入寮者を増やす努力をすべきであろう。
- * 教員の宿直指導には、頭が下がる。

- * 対人関係で肯定的回答が多いことは好ましいことである。
- * 一方、設備やお風呂にはかなり不満がある。どのような設備でどれくらい不満なのか分からないが、自習時間との絡み等、何か工夫が必要なかもしれない。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 様々な点で、学生の側に立った支援や改善が進んでいると感じました。
- * 3人部屋、2人部屋の学生同士の不適合はないのか疑問でした。
- * 節電や防犯の取組は、さすが高専だと思いました。

<意見・提言：朝長委員>

- * 入寮待機者対策については、寮の施設改善を含め検討を要するのでは？

<意見・提言：松瀬委員>

- * 学寮の運営については、寮生会（自治会）による運営も含めて、上手くいっていると評価します。
- * 特に、4、5年生においても相当数の寮生が残っていることに驚きすら感じます。
- * ただ、最近問題になっている、いじめおよび心のカウンセリングの問題については、中々表面に出にくく、出た時には重症化しているケースが多く、一層注意深い観察と対応を願う。

<意見・提言：開委員>

- * 友人；
だれも知らない・不安の中で入学し高専生活をスタートしますが、寮で同部屋になった人が最初の友達になり、食事や勉強を一緒にするなかで落ち着いた生活ができるようになった記憶があります。私共の時は、学業の成績と部活の両面で明らかに通学生と寮生では差があったように記憶しています。寮生活は、遊び・誘惑からも隔離できる、友達と勉強で分からないところを教え合える場として高専教育の基礎をなすところで非常に重要な気がします。
- * 風呂；
部活を終えて最後に風呂に行くと大変汚い湯船が待っていた記憶があります。シャワーの設備がたくさんあれば、よかったかなと思います。（現状を知らないので申し訳ありません）

<意見・提言：松井委員>

- * 個人主義、核家族が普通になった社会で、寮で団体生活をすることは大きな意義があると思います。
- * やられているように、出来るだけ自主的な運営をさせるのがいいと思います。5Sを徹

底させることも大切と思います。

- * 食事には大体満足されているようですが、栄養のバランスなどだけでなく、安全安心な材料を使うことも大切と思います。

<意見・提言：池本委員>

- * 男子1、2年は全寮制が基本のようだが、女子が「希望者」となっているのはなぜ。
- * 全寮生アンケートによると、対人関係は友人関係、先輩後輩関係とも「良好」との回答が多く、安心して居る。一方で、居室や風呂場などの「設備」や食事内容に対する満足度は低いようだ。改善の余地があるのではないか。年次計画で進めてほしい。

<回答>

開校当初より女子寮は設置されておらず、自宅通学ができない女子学生は学校近隣での下宿等で対応していました。しかし、女子学生の増加や確保計画に伴い、平成5年に女子棟が整備されました。ただし、寮内に新たな棟を建てるスペースはないため、既存の一部を女子用に改修したもので、それに伴い男子定員は減らさざるを得なくなりました。しかしこれでも1・2年生女子全員を入寮させるには不足しています。(最低限の上級生用の部屋の確保も必要である。)

男子同様、女子も全寮制とすることが望ましいと思われませんが、施設的な問題の他、女子教員が不足している等、指導・管理体制も十分に整った状態にないため、女子は「任意」のままとなっています。

<意見・提言：馬場委員>

- * 1～2年生の全寮制は良いことだと思う。しかし、免除者が30%程というのはどうかと思う。かぎりなく100%にして欲しい。
- * 部屋割も1～2年時は4人が良いのではないかと思う。
- * 昨年の50周年の時に寮を見学させてもらったが、環境は良かったように思えた。

項目5. 社会との連携について

<意見・提言：山田委員>

- * 出前授業や一日体験入学など、極めて多くの活動実績がある。教員のたゆまぬ努力に敬服したい。
- * 地域共同テクノセンターの効果を期待したい。

<意見・提言：太田委員>

- * 工学系の大学がない県北では地域共同テクノセンターの役割は大きい。
- * 可能な限り地元のニーズに応え、地元のシーズとなるような研究を心掛けて頂きたい。

- * これからの課題に、「3. 製品化を行う」とあるが、この点はあまり拘らない方が良くはないか。分野にもよるかもしれないが、製品化まで「学」がやろうとすると、往々にしてノウハウが不足している場合がある。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 地域の拠点校として活躍されていることに敬意を表します。
- * 小中学校への出前授業は、高専の先生方の質の高さと人柄の良さをいつも感じています。
- * 地域貢献活動として、高専の強みを生かしたボランティア活動を進めてほしい。また、東日本の復興支援への協力意識を高めてほしい。

<意見・提言：朝長委員>

- * 西九州テクノコンソーシアム機能が、地域共同テクノセンターの設置により強化されている。
- * 企業・市民のPRを強化し、活用をはかる必要がある。

<意見・提言：松瀬委員>

- * 地域共同テクノセンター、NTC等、よく積極的に活動されている。しかし継続的なPRが重要と認識する。
- * 佐世保高専は長崎県北地区唯一の工科系高等教育・研究機関であり、今後も佐世保高専がその中心に居ることは間違いなく、期待される役割は大きく地域の核として認識している。

<意見・提言：開委員>

- * 協業；
弊社は、ニッチな商品ですが溶接ロボットを国内に1,000台ほど販売しています。(40台/年) 一方、佐世保高専の「ロボコン」が今一不調のようですが、何かしら支援できることも考えてみたいと思っています。「ロボコン」経験者は、研究所の実験担当として非常に貴重な人材です。
- * 一日体験入学；
出前授業と同様に高専を知っていただく、いい機会となるでしょう。(先生方は非常に大変なことと思います) こういった場を活用して高専の就職率の高さ(特に女性の就職に有利)を宣伝されては如何でしょうか。

<意見・提言：松井委員>

- * 長年の念願でありました地域共同テクノセンターが設置され、NTCなどのネットワークも機能するようになりましたので、高専と産業との連携がとりやすくなったと思います。地域の産業を学校、学生に知ってもらおう環境が整ってきたと思います。

- * 特に中小企業も大企業と違って、面白いことを知って頂きたいと思います。しかし、どうしても企業にとって、高専の敷居は高いという感じがあります。これは、お互いに克服しないといけないと思います。
- * 地域共同テクノセンターの広報は守秘義務があるので、難しいと思いますが、できるだけ活動の広報はされたほうが良いと思います。

<意見・提言：池本委員>

- * 地域共同テクノセンターは「産」「官」との連携を深め、技術研究活動はもとより、学生たちの県内就職向上につながる取り組みとしても期待したい。

<意見・提言：馬場委員>

- * 地域社会に積極的に連携してゆこうという姿勢は大変評価できる。今後も続ける意味は充分有ると思う。ただ、結果も出していてもらいたい。

項目6. 広報活動について

<意見・提言：山田委員>

- * おもしろ実験大公開に多くの参加者があり、極めて効果的な活動であると思われる。
- * 体育祭はどれくらいの見物客が来るのでしょうか？

<回答>

体育祭の見物客数は、主に保護者を中心として、おおよそ1,000人ほどです。

<意見・提言：太田委員>

- * 「沖新通信」と言っても、外部の人には佐世保高専と結びつかないが、内部向けの広報だからこれで良いのでしょうね。
- * 学校要覧の表紙は「2012」ですが、中身は昭和37年創設となっている。50年経ったという実感は湧きません。本学でもそうなのですが、理工系なら西暦に統一する方が分かり易いのではないかと。論文の発表等の業績は西暦で表し、略歴は昭和で記載すると、いつ発表したのか大変分かり難くなります。

<意見・提言：鴨川委員>

- * PR活動が年々充実していると感じます。
- * ホームページもわかりやすいです。
「2012は50周年を迎えます」のトップ見出しは、過去形に変更されてもよいのでは？

<回答>

ホームページのトップ 50 周年の記事は、「2012 年 佐世保高専は創立 50 周年を迎えました」と過去形に修正しました。

<意見・提言：朝長委員>

- * 概ね良好であるが、一般市民や市内企業の認識がうすいようなので、強化する必要があるのでは。

<意見・提言：松瀬委員>

- * 下記をポイントに広報活動をお願いしたい。
 - ① 高専教育（5年一貫教育、専門教育）の質の高さ
 - ② さらに専攻科（大学同等以上の教育課程）の存在
 - ③ 実社会からの高い評価今後も粘り強く活動願いたい。

<意見・提言：開委員>

- * **OBの活用**；
本科教育のところで説明がありました高専説明会や学校訪問については、現職をリタイアしたOBを活用しては如何でしょうか、卒業生は、何かしら高専に貢献したいと思っている人も多と思います。

<意見・提言：松井委員>

- * イベントの情報は、回数多く発信された方がいいと思います。
- * ホームページでの意見交換は、片道通行だけでなく往復の意見交換もいいと思います。保護者とのやりとりはやっておられるようですが。
- * 守衛室があって、時折、守衛もおられますが、高専の事をあまり理解されていないようです。

<意見・提言：池本委員>

- * おもしろ実験大公開は大好評と聞き、子どもたちにとっては、科学の面白さに気付くいい機会になっているのではないか。ただ、イベント内容が主に小学生向けとの説明だったが、高校受験を控えた中学生向けの内容を充実させてもいいのでは。佐世保高専の受験生獲得にもつながると思う。

<意見・提言：馬場委員>

- * 最近は大変積極的に広報活動が行なわれているように思う。知名度を上げることは学生を集める基礎だと考える。まずは存在を多くの人に知ってもらうことが大切。

特に評価できる点

<意見・提言：山田委員>

- * 専攻科の改組は意欲的な取り組みである。
- * 地域共同テクノセンターの立ち上げによる効果が期待できる。
- * 教員が多額の研究費を獲得しており、教育、研究の両面で活動的である。
- * 社会連携や広報で多くのイベントを行っている。

<意見・提言：太田委員>

- * 学寮への宿直勤務等先生が学生の教育に熱心に取り組まれていることが分かります。
- * 複合工学専攻の試みは大変評価できると思います。学生諸君がどのように変わるか観察しつつ、内容の吟味、改善等が今後必要であると思います。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 高い目標を掲げ、着実に成果をあげている。
- * 現状に満足せず、常に改善・向上が図られている。

<意見・提言：朝長委員>

- * 全般的に評価できる。

<意見・提言：開委員>

- * 開始前に一時間ほど学内を見学させていただきましたが、目安箱、ごみ箱、掲示板あるいは体力テストの成績掲示等きめ細やかな指導に関心しましたし、ご説明の内容に関しては、先生方の学生に対するフォロー体制、その内容に感激させられました。

<意見・提言：松井委員>

- * どの項目も完璧に近く、何も言う事はないと思います。そのために、先生方のご苦勞は大変だと思います。一方、高専の特徴として、全寮制、5年間一貫教育、楔形カリキュラムがあります。教育システムの中に学生も組み込まれて、教育の効率を高めていることがよく分かりました。

<意見・提言：池本委員>

- * 学校生活において、いい意味での管理の下で学生を育てており、こういう環境ならば、社会に貢献できる素晴らしい人材が育つのだろうなという印象を持った。学業面、生活

面とも、高校にも大学にもない素晴らしい特徴を感じた。

<意見・提言：馬場委員>

- * 求人状況が良いことは、それだけ卒業生の社会での活躍が認められているとのこと。

特に改善を要する点

<意見・提言：太田委員>

- * なかなか難しいとは思いますが、留年者・退学者を減らす努力は続けなければならない。
- * 科研費が増えていることは喜ばしいことですが、教員数から考えて、もっと増えても良いのではないかと感じます。
- * 過去の共同研究費が奨学寄付金のような研究費になっているのであれば問題ないと思いますが、そうでないなら少なくなっていることが気になります。

<意見・提言：松井委員>

- * 指摘することはありませんが、敢えて言えば、あまりにも親切な指導が行きとどき過ぎているのではないかと思います。学生達が、お互いに協力し合っているのはいいと思いますが、問題解決能力を鍛えるためには、時々突き放すことも必要かと思いました。

<意見・提言：池本委員>

- * 私がこだわるのは、地元意識という点。本県内の学生が7割を占め、県民にとっても「地元の学校」という意識が強いと思う。そうであれば、卒業後も地元で活躍する学生をもっと育ててほしい。

<意見・提言：馬場委員>

- * 特別には無いが、学生と教師のコミュニケーションが充分行なわれることを願う。

その他の提言、意見等

<意見・提言：山田委員>

- * 地元への就職状況については、OBの方からの意見もあったように、OBも含めた評価をされることを検討されてはどうかと思いました。

<意見・提言：鴨川委員>

- * 本来のインターンシップを目指してほしい。

- * 夢の扉で紹介されたもののように、これからの日本や世界の人々の生活支援ができるものづくり、コミュニケーションを助けるツールの開発を、学生の柔軟な発想で積極的に進めていってほしい。

<意見・提言：朝長委員>

- * 授業料については、二段階制が良いのでは、
 - 1～3年生は、公立高校と同程度
 - 4～5年生は、国立大学と同程度現在は、1～3年生は、負担感が強いのでは？
これは、佐世保高専だけの問題ではないと思いますが、機構で検討される課題では？

<意見・提言：松瀬委員>

- * 過去もそうだったと思うが、高専の先生方がこんなに丁寧に学生を育てられていることに感銘を受け、卒業生の一人として誇りに思いました。
大学のレベル低下が指摘される中、高専学生の全人教育の成果が評価される時代が来たと思います。
- * 今後は、学生に他の大学を体験させ学生のモチベーションを更に向上させるためにも、他流試合として他校の講義を受け、単位互換制の柔軟な運用と支援を期待する。

<意見・提言：開委員>

- * 専攻科に対する認識が一変しました。複合工学専攻に期待しています。

<意見・提言：松井委員>

- * 教員の健康管理が必要かと思います。

<意見・提言：馬場委員>

- * 私の時代(7回生)からいわれていたが、工業高等専門学校という呼び名は「高専」にすべきだと思う。

Ⅲ 外部評価委員会資料

(自己点検・評価報告書)

(1) 佐世保高専の概要について(校長)

佐世保高専の概要

平成25年3月20日
佐世保工業高等専門学校
外部評価委員会

高専制度の制定

即戦力となる中堅技術者の養成 経済成長時代のはしり
(昭和36年(1961年)法律第144号)

学校教育法 第5章の2 高等専門学校
第70条の2 高等専門学校は、**深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成**することを目的とする。

参考
第5章 大学(昭和22年法律第26号)
第52条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、**深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開**させることを目的とする。

高専制度の変遷

平成21年 国立高専再編：4地区で高専統合
平成16年 独立行政法人国立高等専門学校機構
平成15年 沖縄高専設立(昭和49年以降新設)
平成3年 高専設置基準の大綱化

- ・準学士の称号
- ・分野の拡大： バイオ、デザイン、経営
- ・専攻科制度(学士の称号)
- ・大学院への進学

昭和51年 技術科学大学創設
 昭和49年 国立54高専
 昭和37年 高専設置 → 佐世保高専
 12高専設置

高専の特徴

- ・ **早期専門教育を行う高等教育機関** (15~20歳~22歳)
- ・ **5年一貫教育**における専門科目と一般教養科目のくさび型カリキュラム
- ・ 大学受験のないゆとりの中で**体験的学習(実験・実習)**を重視した**実践的教育**
- ・ 課外活動および学寮生活における**人間教育**
 →高専特有の「**実践的技術者マインド**」の形成
 →産業界からの高い評価(高い求人倍率)

佐世保高専の沿革

昭和37年 4月 創設
機械工学科 (2クラス/定員80名)
電気工学科 (1クラス/定員40名)

昭和41年 4月 **工業化学科** (定員40名) 増設

昭和63年 4月 **機械工学科** 1クラスを**電子制御工学科**に改組

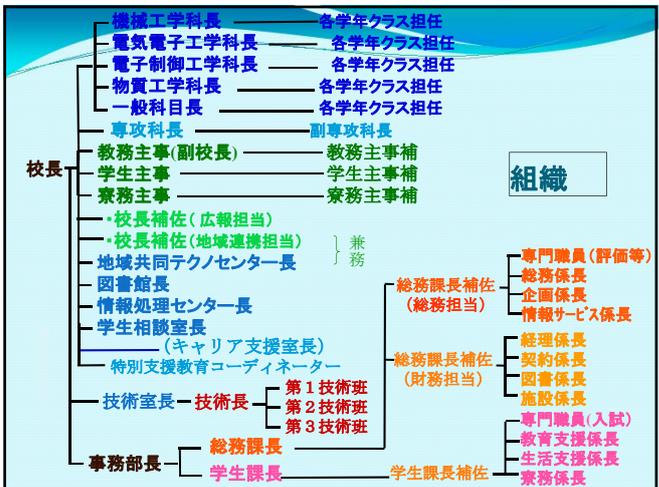
平成3年 4月 **工業化学科**を**物質工学科**に改組

平成9年 4月 専攻科設置
機械工学専攻 (定員4名)
電気電子工学専攻 (8名)
物質工学専攻 (4名)

平成17年 4月 **電気工学科**を**電気電子工学科**に名称変更

平成17年 5月 JABEE技術者教育プログラム認定(21年度更新)

平成24年 4月 専攻科3専攻を**複合工学専攻** (定員16名)に改組

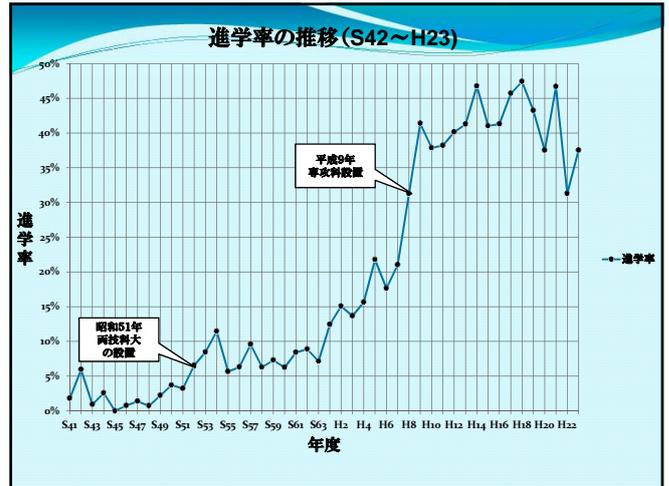


(1) 佐世保高専の概要について(校長)

教育理念

本科:
5年間に亘る一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される**基礎学力と高い専門知識と実践力を植え付ける**

専攻科:
7年間に亘る一貫教育に加え、**他分野の専門的基礎をも学び複眼的視野を持つ技術人材の育成する**



第2期中期目標・中期計画(平成21~25年度)とその実施状況

1. 教育に関する目標

- (1) 入学者の確保
 - ① 広報活動の展開...中学校訪問の強化→志願者倍率2倍を確保
- (2) 教育課程の編成
 - i) コース制の導入...国際的技術者育成、環境エネルギー、地域連携
→具体化を検討中
 - ii) 専攻科の充実...1専攻多コース制の検討
→単一専攻制「複合工学専攻」への改組(平成23年)
 - iii) カリキュラムの改善...①一般教育と専門科目の整合性検討
②知識活用型教育(4年次)
③企業現場の技術者による講話
④各学科の機動的カリキュラム改訂
 - iv) 国際性の涵養...①厦門理工学院との国際交流
→専攻科生と学院3~4年生が3週間の相互交流
②海外工場見学旅行(4年次生)
③スウェーデン王立工科大学、韓国仁荷大学との国際交流(教員・学生)
④国際工学教育研究集会(ISATE)への参加・発表

- (3) 優れた教員の確保...
 - ①公募制、模擬授業
 - ②FD研修会(年4回以上)の実施
 - ③学生による授業評価の活用
 - ④教員顕彰制度
- (4) 教育の質の向上のためのシステム
 - ①全国高専教育フォーラムなどへの積極参加
 - ②学年担任間の連携強化・きめ細かな学生指導
 - ③出欠管理システム、進路情報検索システム等の活用
 - ④インターンシップの必修化(4年次)
- (5) 学生支援・生活支援
 - ①キャリア教育の推進(低学年時から)の工場見学、進路情報の提供、OB講演会開催
 - ②快適な学寮環境の整備・運営
 - ③図書館、情報処理設備、学生相談室の充実
- (6) 教育環境の整備・活用
 - ①施設整備マスタープランの作成
 - ②安全管理(「安全の手引き」配布)
 - ③技術室の設置(平成21年)とその運用体制の確立

2. 研究に関する目標

- (1) 学科間を越えた融合研究体制...校長裁量経費の活用
- (2) 地域ニーズに合った研究活動...NTCとの連携
- (3) 外部資金獲得へのインセンティブ...科研費獲得の奨励

3. 社会との連携や国際交流に関する目標

- (1) 社会との連携...NTCの企画運営、長期インターンシップ(地元企業)「地域共同テクノセンター」の設置
- (2) 国際交流...海外の大学等との交流、厦門FDK有限公司でのインターンシップ(専攻科)、留学生支援

4. 広報活動に関する目標

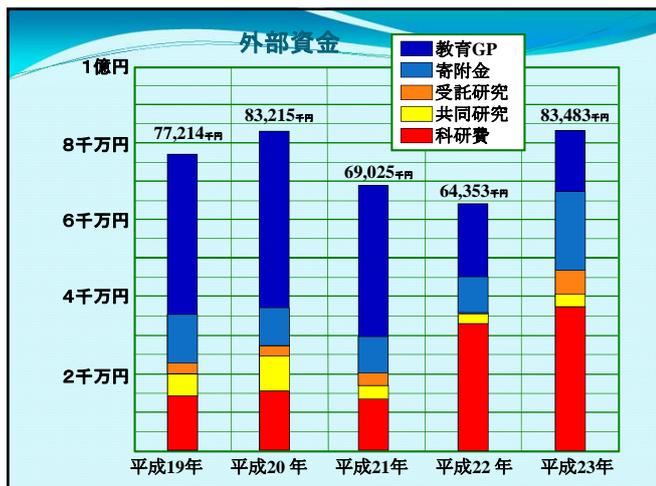
広報用ホームページの充実、公開講座、一日体験入学、おもしろ実験大公開(毎回2,000人以上:県内一のイベント) 出前実験・授業等(年間40回以上)の企画実施

5. 管理運営、業務運営に関する目標

高専機構の方針に沿った業務運営の改善、効率化の実施(国立大学等との人事交流、学外研修による事務職員のスキルアップなど)



(1) 佐世保高専の概要について〔校長〕



- 各種評価への対応
- ・機関別認証評価(大学評価・学位授与機構)
H18年度受審、**H25年度受審予定**
 - ・専攻科審査(大学評価・学位授与機構)
H9年度設置、H14年、H19年度受審、
H23年度審査(改組)
 - ・技術者教育認証(JABEE)
H16年度受審、H17年度認定、H21受審、**H27年度受審予定**
 - ・独立行政法人事業年度評価: **毎年度**
 - ・自己点検評価報告書
H25年度作成予定(機関別認証評価と同一年度)
 - ・外部評価(外部評価委員会)
H16年、H21年実施、 **H25年実施**

完

(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)

国立佐世保工業高等専門学校

H24年 外部評価委員会 (教務主事室関係)

学生(主に本科)の教育について

1. 教育目標(本科)
2. 入学者選抜(入試対策等)
3. 教育課程(本校独自の取組他)
4. 卒業生の進路

1. 教育目標(本科)

- 1) ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な**職業意識**、**学習意欲**を養成する
- 2) 高度科学技術を中核となって推進するための**基礎知識**と**基礎技能**、**専門知識**を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を育成する
- 3) 実験実習など体験学習を重視して、豊かな**創造性**と**実践力**を養成する

教育目標(本科)

- 4) **論理的な思考力**、**コミュニケーション能力**、**プレゼンテーション能力**を養成する
- 5) 情報技術の進展に対応できるよう、全学科において**情報リテラシー**の向上をはかる
- 6) **豊かな教養と倫理観**を身につけ、**地球的な視野**で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する

2. 入学者選抜

1. 推薦入試

- ・募集人員:各学科定員の**30%程度**
- ・出願資格:9教科の5段階評価の総計**110以上**
- ・推薦人数:**各学科2名**/1中学校
- ・判定:面接の結果と調査書の内容を総合

2. 学力入試

- ・5教科の総合得点と中学校の調査書による総合判定
- ・志望学科:第3志望まで

3. 入試対策

- ・中学校訪問:5月~6月と10月~11月の2回、全教員で300校以上の中学を訪問した。その結果、目標とする入試倍率2.0倍以上を2年連続で達成できた。
(中学校訪問数:H24年322校、H23年343校、H22年148校)
(離島:壱岐、対馬、下五島の中学約20校訪問)
- ・高専説明会8回実施(高専説明会参加者:H24年642名、H23年688名、H22年491名)
- ・高校説明会:中学生及び保護者対象H24年15回参加
- ・一日体験入学(中学2・3年生対象)8月実施(全学科の体験可能→ミスマッチ減少のため)(参加者:H24年635名、H23年642名、H22年549名)
- ・入試懇談会(中学教員、塾の先生対象)9月~10月に4回実施

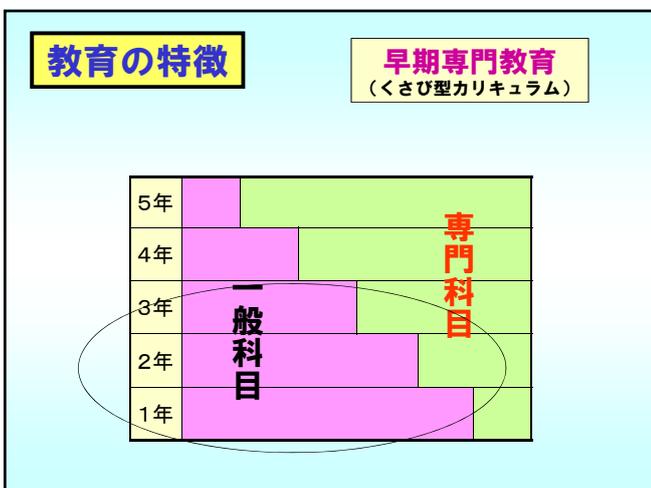
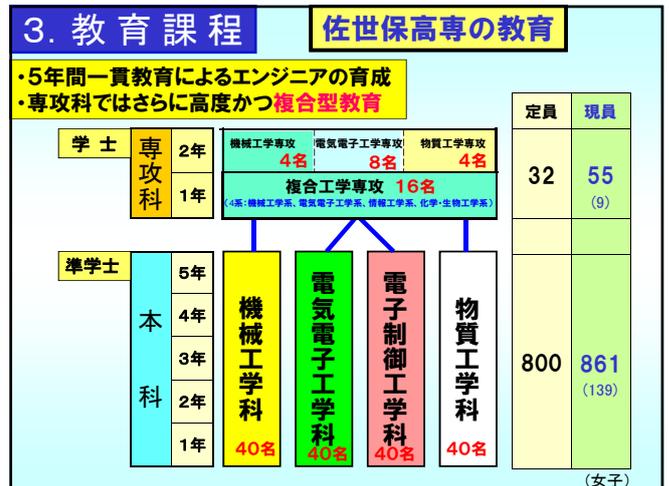
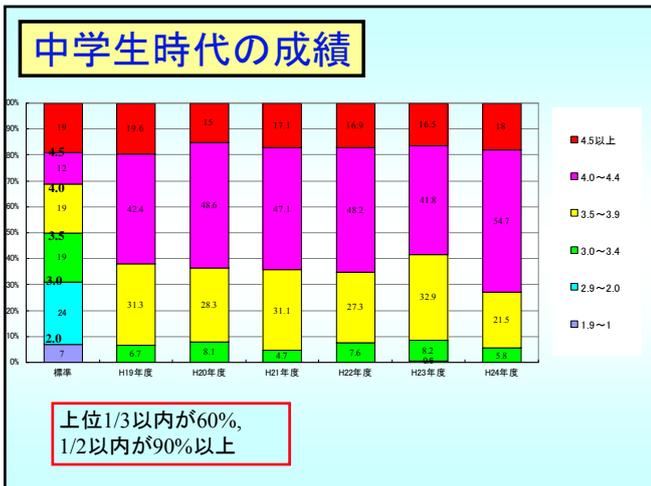
H24年度 高専説明会

時津地区	6月 2日(土) 時津カナリーホール
唐津地区	6月 3日(日) 唐津市民会館
大村地区	6月 9日(土) 大村市民会館
島原地区	6月16日(土) 島原復興アリーナ
長崎地区	6月23日(土) 長崎県建設総合会館
佐世保地区	6月24日(日) 佐世保工業高等専門学校
諫早地区	6月30日(土) 諫早商工会館
佐賀地区	7月 7日(土) 佐賀市民会館
佐世保地区	11月10日(土) 佐世保工業高等専門学校

(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)

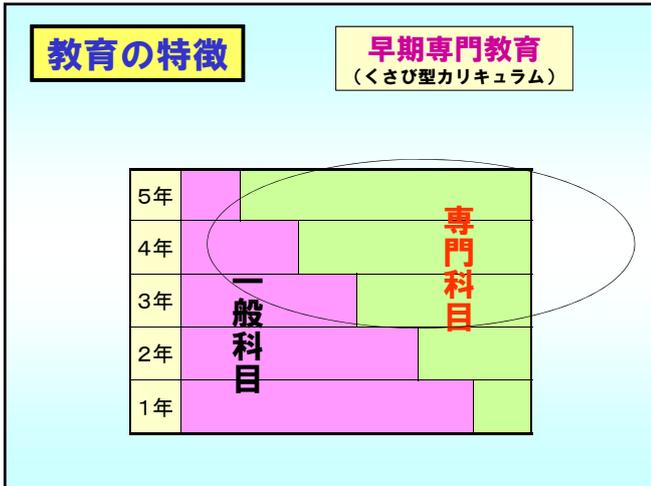
H24年度入試懇談会	
長崎地区 中学校教員	9月19日(水)14:00~ 長崎建設総合会館
学習塾	9月21日(金)14:00~ 佐世保工業高等専門学校多目的教室
佐世保地区 中学校教員	9月24日(月)14:00~ 佐世保工業高等専門学校多目的教室
佐賀地区 中学校教員	9月27日(木)14:00~ アバンセ

最近の5年間の競争率					
区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
機械	1.2	2.0	1.5	1.7	1.7
電気	2.1	1.8	1.5	1.7	2.3
制御	1.9	2.0	1.9	2.6	2.0
物質	2.3	1.7	1.6	2.4	2.0
本校全体	1.9	1.9	1.6	2.1	2.0
九州平均	1.85	1.92	1.84	1.94	1.92
全国平均	1.79	1.83	1.83	1.92	



- 佐世保高専の教育
- 有能な教員によるユニークな低学年教育(1~3年)
1. 博士号を持つ一般科目教員(20名中8名)
(博士号を持つ教員による論理的な指導(体育や社会、国語を含む)→ 学生の理解力向上)
 2. 徹底した数学教育(6名の数学教員)
 3. TOEICスコア970点以上の日本人英語教員、ネイティブスピーカー(米国等)の非常勤教員
 4. 九州芸術文学賞受賞者による国語教育
 6. 豊富な海外留学経験教員(一般科目教員20名中6名以上)
 7. 低学年からの専門教育

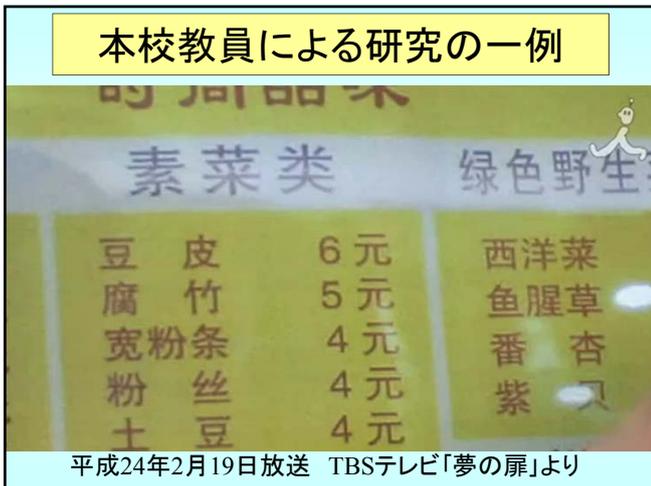
(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)



佐世保高専の教育

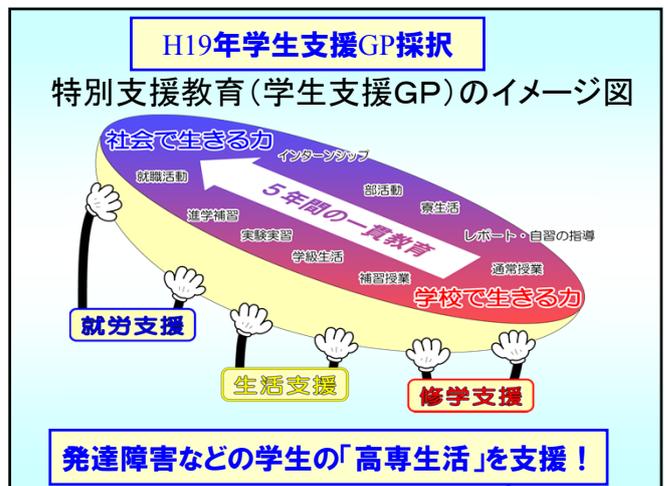
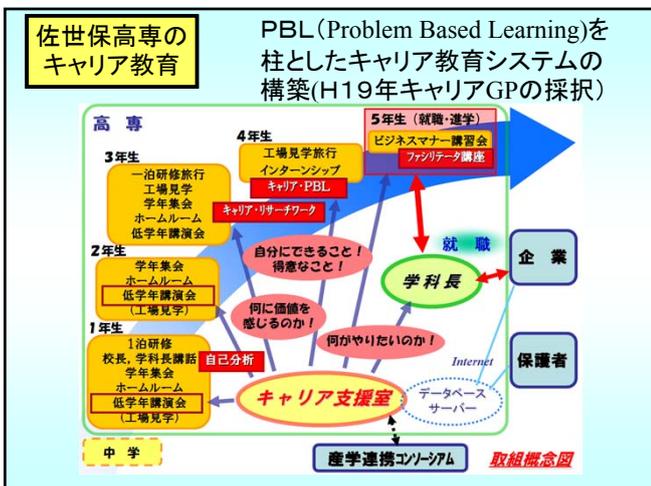
優秀な研究者による特
徴的な専門教育

1. 専門教員の大半が**博士号取得者**
(学術論文へ**毎年10~15件以上の論文投稿**)
2. 九州大学等との共同研究
3. 多くの企業経験者→産業界とのマッチング
4. 技術士等の資格を有する教員→資格を持つ学生の増加
5. **豊富な海外留学経験者**→グローバルな学生の育成

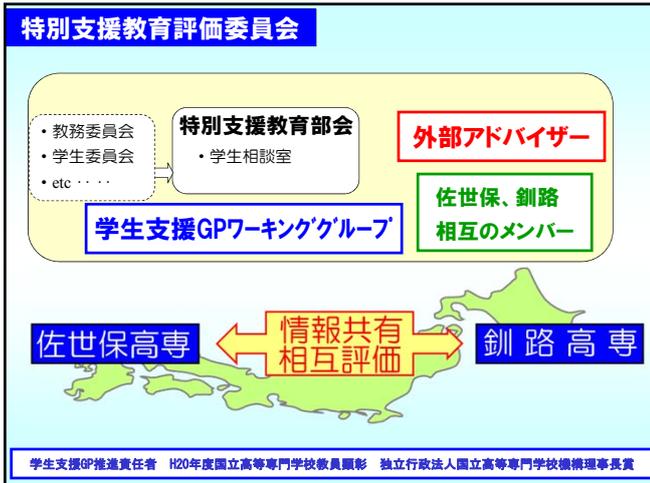


高専の短所と本校の対策

1. 学歴社会における位置づけ
知名度が低い, 少数派
↓
多様な進路, 学歴社会から実力社会へ
2. 早期専門教育のリスク
ミスマッチング(不適合)
↓
きめ細かな指導体制(副担任制)
学生相談(支援)室、キャリア教育、転科制度



(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)



H21～24年度における特別支援教育の取組

◆ 予算措置

- ・厚生補導特別企画書にて高専機構に申請
- ・科研費(釧路高専3名・佐世保高専2名の共同研究)

◆ 特別支援教育は継続

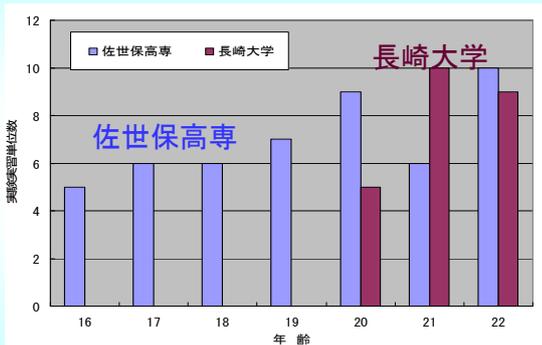
- ・特別支援コーディネーターの指名(松尾教授)
- ・定期的に特別支援教育部会の実施(年3回)
- ・外部の専門家の支援の継続(新規も含む)

特別支援教育アドバイザー／作業療法士／精神科医／カウンセラー
特別支援教育士(臨床心理士)／障害者職業カウンセラー／オプトメトリスト

20

早期専門教育・実験実習重視

長崎大学工学部と佐世保高専との比較



大学の3倍以上の実験実習を高校1年より行う



卒業研究



卒業研究
5年生で1年間研究



佐世保高専における国際交流

現代GP「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」
→廈門理工学院を中心とした交流(H17-H20)

1. 4年間の取り組み成果、工学教育などに論文発表(8件)、高専機構主催教育研究集会などに口頭発表(26件以上)を行った。

2. H20年度九州工学教育協会賞・H21年度日本工学教育協会業績賞受賞「日中相互交流を通じた国際性に富む実践的技術者の育成」

→高い評価→これを工学に特化させ、地域的拡張する

(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)

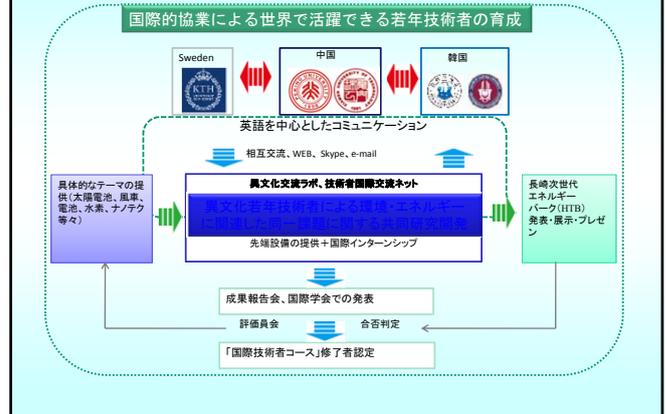
国際交流に関する新しい取組

東アジアや欧州の学生と本校の学生がチームを作り、同じ工学・技術的な課題に対して一定期間共同で解決(協業)に取り組む課題探求型教育課程「国際技術者コース」を編成する。

単に国際性の向上にとどまらない異文化交流力と、工学技術向上のための課題探求能力を同時に涵養する。

H21年度の大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム(H21~H23)に採択

国際技術者コースとは



3年間の事業内容

- (1) 厦門理工学学院との相互交流(本科4年生、専攻科生)
- (2) 環境エネルギー(太陽電池や風力発電)に関する講演会を開く。
- (3) 英語によるコミュニケーションおよびディベート研修。および、海外から講師を呼び、英語による講演会。
- (4) スウェーデン王立工科大、厦門理工学学院・北京大(中国) 仁荷大(韓国)の学生とディスカッションによる協業、発表会の実施
- (5) 全国の高専で行われている環境エネルギー関連の研究開発の調査研究を行う。

厦門理工学学院との相互交流(1)

厦門理工学学院との相互交流: 佐世保高専への受入

7月上旬~下旬の3週間: 教員述べ3名、学生6~8名

- ① 授業参観と学生実験への参加・市長表敬訪問
- ② 日本の文化施設見学および街頭インタビュー
- ③ 佐世保北ロータリー会員家庭でのホームステイ
- ④ 先端教育施設を用いた研究実験(英語コミュニケーションによる専攻科生との共同作業)→国際協業



佐世保高専: 受入事業



・TV佐世保取材
VTR

厦門理工学学院との相互交流(2)

厦門理工学学院との相互交流: 厦門理工学学院への派遣

10月中旬~下旬の3週間: 教員述べ3名、学生6名

- ① 授業参観と学生実験への参加
- ② 中国の文化施設見学・街頭インタビュー
- ③ 厦門FDKでインターンシップ
- ④ 中国の家庭訪問(1泊)



(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)

厦門理工学学院との相互交流(3)

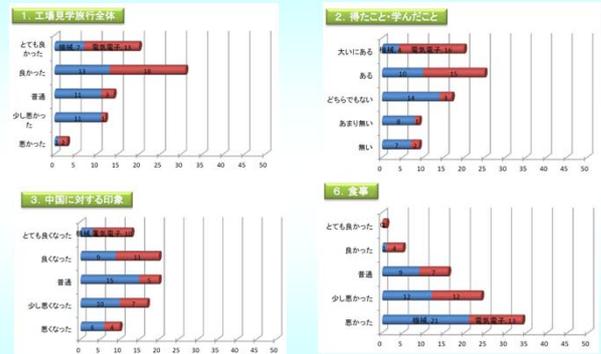
若年者との交流を深めるために、H21、22年度に本校4年生(機械工学科、電気電子工学科)が、厦門地区の工場見学を行った。その際、厦門理工学院との交流も行った。

10月中旬: 教員述べ4~6名、学生約80名

(平成23年度は、機械工学科:シンガポール、電気電子工学科:中国、電子制御工学科:台湾、全学科から希望学生17名:スウェーデン)



工場見学アンケート結果(4年機械、電気電子)



英語力の向上のために

英語力を向上させるために、何らかの取り組みが必要。

英会話教室形式で、ネイティブスピーカーによる少人数のコミュニケーション能力の向上をはかる。

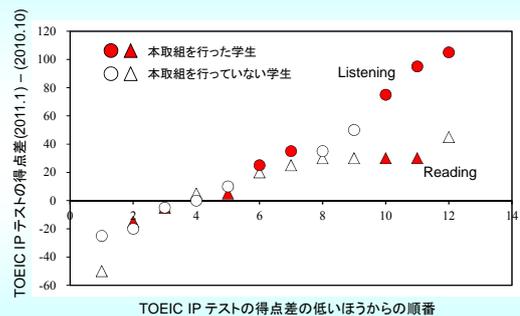
H22年度後期から機械工学科にて実践。

(H23年度以降は、電気電子工学科学生及び専攻科生も参加)

H22年度の取り組みの様子



H22年度の取り組みの効果の検証



国際協業

日時: H23年12月6日~9日、

場所: 佐世保高専 異文化交流ラボなど

日本、中国、韓国、スウェーデンの学生が環境とエネルギーに関するディスカッションを行った。ディスカッションは2つのグループに分かれて行われたが、非常に活発であった。最終日には、最終プレゼンテーションをハウステンボス全日空ホテルで開催した。



海外の大学との学術交流

中国・厦門理工学院



スウェーデン王立大学



中国・北京大学



1. 毎年専攻科生の相互交流
2. 希望者のスウェーデン王立大学への優先留学
3. 希望者の北京大学優先留学

↑
留学経験教員によるBackup

4. 韓国・仁荷大学、中国・承德石油高等専科学校と交流協定を締結

(2) 学生(本科)の教育について(教務主事)

資格取得で全国トップレベル

実績

＜文部科学大臣賞(団体賞)受賞＞
 H19年度「ラジオ・音響技能検定」10名合格
 H18年度「デジタル技術検定」82名合格
 ※文部科学大臣賞を平成15、16、18、19、23年度に受賞
 ◎電気科学技術奨励賞を「佐世保高専における電気系学生における資格取得に関する実践的教育システムの構築」でH24年度に受賞

＜技術士1次合格数 全国トップレベル＞
 H8年度13名、H19年度13名、H20年度23名、H21年度19名、
 H22年度16名、H23年度6名、H24年度23名(4年生6名、5年生9名、専攻科生8名)の合格は、全国高専の会合でも報告がなく、
 全国1位と言える。
 ◎指導担当教員がH23年度に九州工学教育協会賞受賞
 ※技術士は、技術士法に基づく日本の国家資格。技術士の称号を使用して、登録した技術部門の技術業務を行うことができる。

卒業生の進路

求人倍率の比較

年度	一般新卒大学生	佐世保高専卒業生
H19年	1.89	19.5
H20年	2.14	18.0
H21年	1.62	20~35
H22年	1.28	12~16
H23年	1.23	10~14

(リクルートワークス) (本校独自調べ)
毎年、新卒者の10~35倍という高い求人倍率

就職先の例

運輸: トヨタ自動車、日産自動車、本田技研、マツダ、JAL、JR東海、JR西日本、JR九州
鉄鋼: 新日鉄、JFEスチール、川崎製鉄
電機メーカー: パナソニック、東芝、日立、ソニー、三菱電機
重工業: 三菱重工、富士重工
精密機械: ニコン、キヤノン、コニカミノルタ
情報通信: NHK、NTT、KDDI、京セラ、任天堂
電力会社: 九州電力、中部電力、関西電力、東京電力
食品: グリコ、森永乳業、ハウス食品、……等

※大学では大企業に就職できるのは、ほんの数%

佐世保高専の就職数

	求人会社数	求人数	就職率	長崎県	九州内
H19年	508	1712	100%	10%	31%
H20年	531	1815	100%	9%	22%
H21年	598	1786	99%	17%	28%
H22年	471	1422	98%	11%	35%
H23年	480	1489	99%	8%	29%

就職率ほぼ100%、求人倍率10~20倍
 地域に根ざした教育→地元就職率高めたい
平成23年度実績・主な就職先100社(昭42年~)

進学先

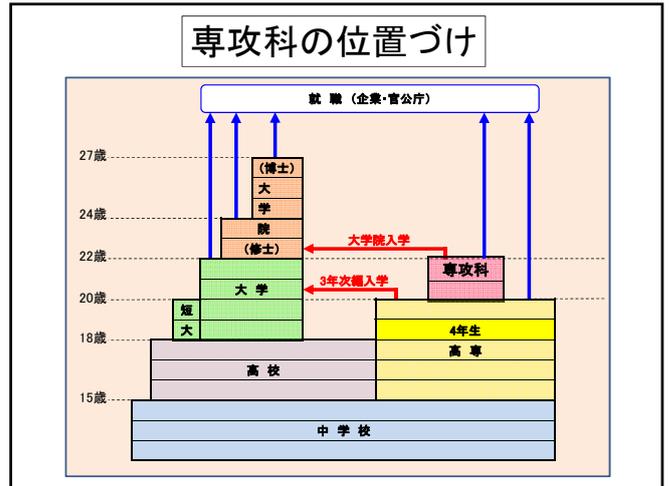
- 1) 東京大学、京都大学、九州大学→編入学試験(倍率2倍以下:一般入試倍率は2.9倍)
- 2) 長岡技大、豊橋技大→推薦編入制度有(高専から多くの編入生)
- 3) 熊本大学→推薦編入制度有、毎年多く編入
- 4) 佐賀大学、大分大学、鹿児島大学等、九州内の多くの大学にも推薦編入制度有

→40名のクラスの上位10~15番以内で推薦可能
 ※国立大学等への進学(50~70人)(専攻科20~30人)九州大学大学院に専攻科生が推薦・学力で2~4名進学(H21年度3名が推薦合格)

(3) 専攻科の教育について〔専攻科長〕

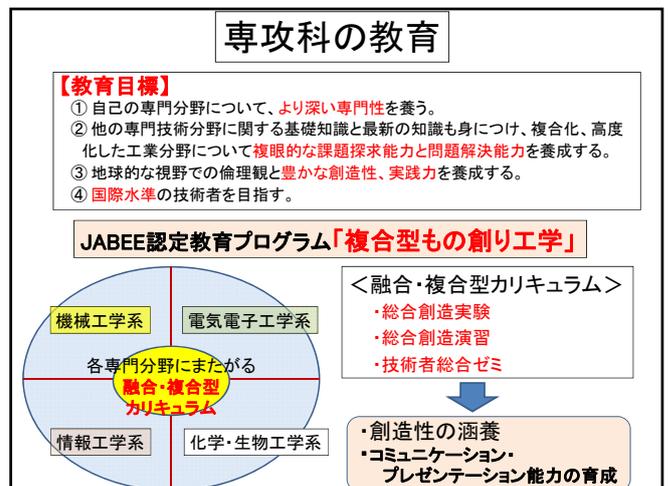
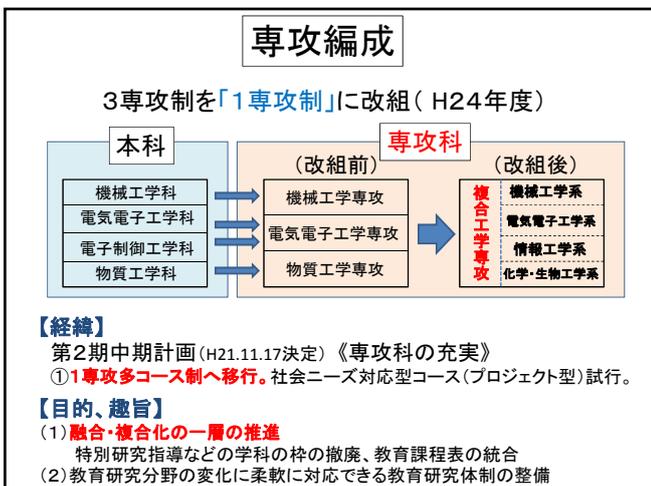
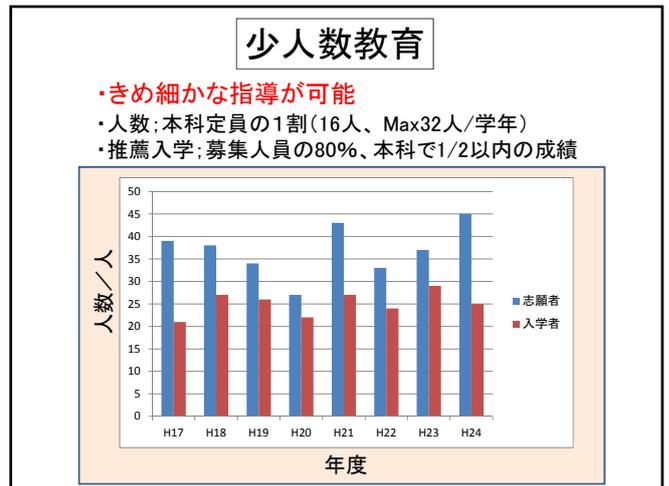
専攻科の教育について

外部評価委員会資料(専攻科)
平成25年3月20日



専攻科の特徴

- 1. 少人数教育**
 - ・きめ細かな指導が可能
- 2. 専攻編成**
 - ・H24年度から「1専攻制」に改組
 - ・3専攻(機械、電気電子、物質) → 複合工学専攻(4工学系)
- 3. 教育・研究**
 - ・高い専門性と他分野の知識(複眼的な視野)
 - ・研究を重視(特別研究); 学会発表を義務づけ
 - ・国際交流
- 4. 学士の学位取得**
 - ・大学評価・学位授与機構による審査
 - ・成果レポート + 学位小論文試験
- 5. 進路**
 - ・就職 + 大学院進学



(3) 専攻科の教育について〔専攻科長〕

総合創造実験(1年前期)

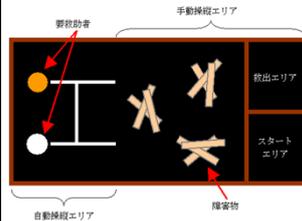
各専門分野(工学系)の基礎実験を他工学系の学生が体験する。**自工学系の学生は、実験の準備・指導までの全てを担当する。**

実験テーマ例
(平成22年度)

専門分野	実験テーマ
機械	lamoxを用いたシステム制御演習
	模型ディーゼルエンジンの分解・組立
	計算風洞による流れの観察
電気電子	減衰振動
	オームの法則とキルヒホッフの法則
	倍率器・分波器
情報	ブラウン管オシロスコープ
	トランジスタ増幅回路の測定
	サーミスタの静特性の測定
化学・生物	シーケンス制御
	ステッピングモータの実験
	基本論理回路の論理演算
化学・生物	グルコースの定量(酵素法)
	酸化還元滴定
	石けんの製造:エステル化のケン化
中和滴定	

総合創造演習(1年前期)

各専門分野(工学系)からのメンバーで構成されるグループに分かれ、**課題テーマに対応したマイコンロボットを製作し発表する。**



学内公開発表会の様子

主なルール

- ・要救助者(ピンポン)を救出エリアへ運ぶ
- ・自動操縦エリアではロボットは自動操縦されなければならない
- ・自作の動力源(化学電池)を使用する

技術者総合ゼミ(1年~2年前期)

課題発表やディベート、また学内外からの講師による講演会を実施する。

平成23年度実施計画

日	授業項目	内容
4月14日	専攻科ガイダンス	本学との関係、自由登録システムの説明
4月21日	作文、JABEE説明会	専攻科の概況(1年)、1年課を振り返って(2年)
4月28日	3分間スピーチ(1年生)	1年生全員による本学の短と専攻科の概況
5月12日	NTCキャリア教育	社会人基礎力講座①(職業人意識、ビジネスマナー)
5月19日	ディベート	2年生、設定されたテーマで議論し、他が判断判定
5月26日	特別研究中間報告会(1)	特別研究の中間報告(2年)
6月2日	特別研究中間報告会(2)	特別研究の中間報告(2年)
6月9日	NTCキャリア教育	企業経営者講演会(三菱重工業社 渡部氏)
6月23日	企業経営者講演会	学内外から講師による講演(MW渡部氏、5名岡田先生)
6月30日	特別研究目的説明(1)	特別研究の研究目的・研究方法等の説明(1年)
7月7日	特別研究目的説明(2)	特別研究の研究目的・研究方法等の説明(1年)
7月14日	NTCキャリア教育	社会人基礎力講座②(コミュニケーション能力)
7月21日	日中相互交流委員会	専門・他専攻 相互学生発表会
8月8日	学修成果レポート説明(1)	学修成果レポートの記述内容説明(2年)
8月15日	学修成果レポート説明(2)	学修成果レポートの記述内容説明(2年)
9月5日	文芸サークル発表会	文学部を主軸とした文芸サークルの発表方法の講演
10月13日	NTCキャリア教育	佐賀県産業支援センターによる講演会(起業家の現状と課題)
10月20日	就職試験練習会	就職試験の練習会(傾向と対策)①
10月27日	就職試験練習会	就職試験の練習会(傾向と対策)②、大学院入試の練習会
11月10日	ディベート	1年生、設定されたテーマで議論し、他が判断判定
11月17日	成長特別講演会	成長による特別講演
11月24日	NTCキャリア教育	企業経営者講演会(岡山商大 宮田社長)
12月1日	企業経営者講演会	大塚洋行(株) 大塚 昌典社長、佐藤本郷大業
12月8日	NTCキャリア教育	社会人基礎力講座③(問題解決能力)
1月12日	インターンシップ報告会	1年、2年(履修履修者含む)インターンシップの報告会
1月19日	学修成果発表報告会	学修成果レポート記述の振り返り・質疑応答報告会(2年)
1月26日	NTCキャリア教育	企業経営者講演会(企業技術センター 芳野)
2月2日	異文化の理解	外国語留学生との対話
2月9日	履修履修報告会	履修履修報告(履修履修者と履修履修)
2月16日	特別研究発表会	特別研究発表会①(面接技術と模擬面接)
2月23日	NTCキャリア教育	企業経営者講演会②(面接技術と模擬面接)

プレゼンテーション
ディベート

NTCキャリア教育
プログラム

その他講演会など



技術者総合ゼミの発表風景

研究

- ・専門教育で**特別研究**を重視; **学会発表を義務づけ**
- ・「1専攻制」による学科横断的な指導体制の整備

表. 学会発表と学会発表受賞の件数(過去5年間)

年度修了生	論文数	学会発表数	発表賞の数(該当年度)
平成19年度	0	52	3
平成20年度	2	41	4
平成21年度	2	41	2
平成22年度	1	48	4
平成23年度	2	53	7

主な賞: 電気学会九州支部優秀論文発表賞、
電気関係学会九州支部連合大会講演奨励賞、
機械学会九州支部卒研講演会優秀講演賞、
化学工学会学生会発表会優秀発表賞 など

国際交流

平成17年度~

廈門理工学院への短期交換留学: 2週間

授業参観, 文化交流, 学生交流, 工場見学, 観光など

海外インターンシップ: 1週間

廈門富士電気化学有限公司(FDK)での実習

<廈門交流の様子>

平成19年度

廈門空港での集合写真

との姉妹

交流協定

授業見学風景

FDKでのインターンシップ

平成24年度~

九州地区9高专連

国際的な技術

太極拳練習風景

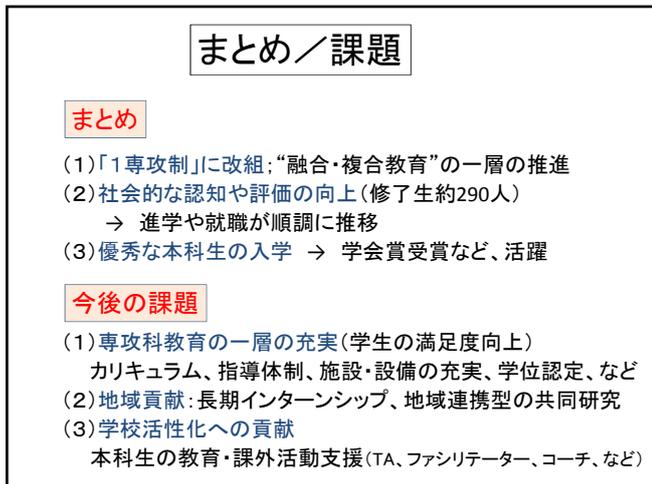
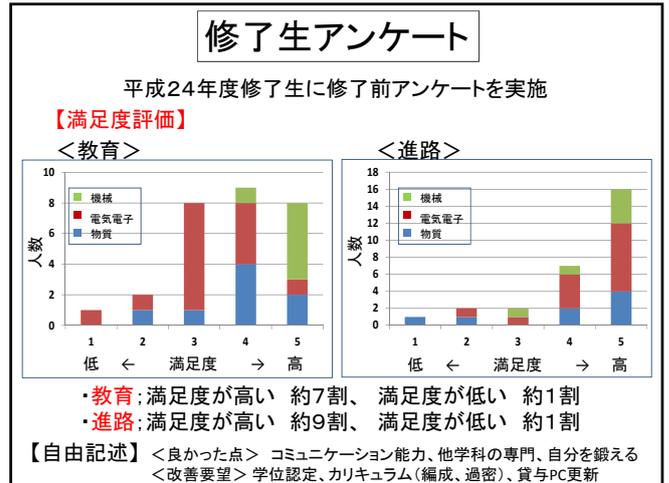
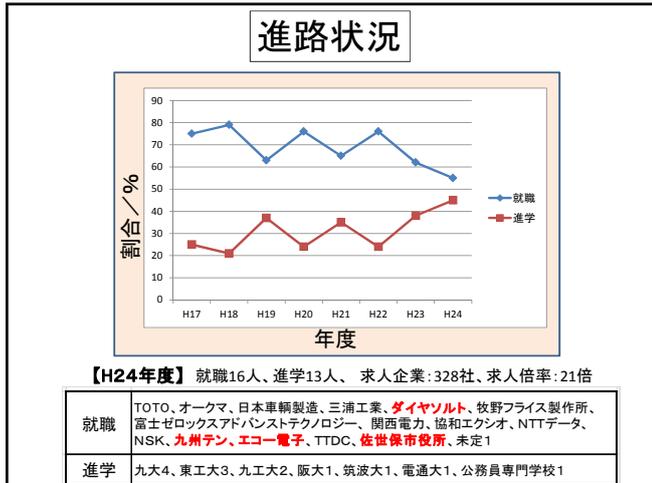
学士取得状況

- ・学位授与機構による審査(レポート提出と小論文試験)
- ・学生/教員への説明会実施、複数教員による個別指導

表. 最近5年間の取得状況

年度	受験者数	不合格者数
平成20年度	26	1
平成21年度	22	0
平成22年度	27	1
平成23年度	24	0
平成24年度	29	0
合計	128	2
合格率	98.4%	

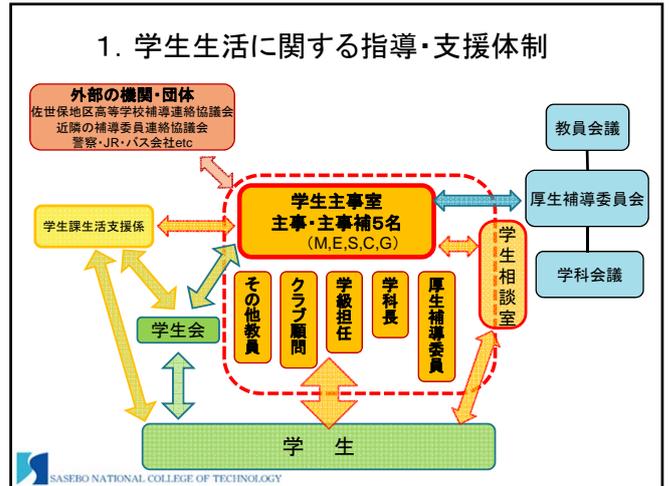
(3) 専攻科の教育について〔専攻科長〕



(4) 学生指導・生活指導について(学生主事)

学生生活・学生指導について

外部評価委員会資料(学生主事)

2. 学校行事(学生主事室関連分)

- 4月 新入生オリエンテーション(青少年の天地, 1泊2日)
開校記念日(遠足, 学科毎の新入生歓迎行事)
- 5月 体育祭
- 6月 高総体(長崎県, 九州地区大会), 交通安全講習会
- 7月 九州沖縄地区高専体育大会
- 8月 全国高専体育大会, 夏季合宿
- 9月 球技大会, 学生会長選挙
- 10月 リーダー研修会
- 11月 高専祭(文化祭)
- 12月 球技大会, 冬季合宿
- 1月 交通安全講習会
- 3月 春季合宿



新入生オリエンテーション

佐世保青少年の天地(H24.4.15-16)



体育祭(H24.5.20)

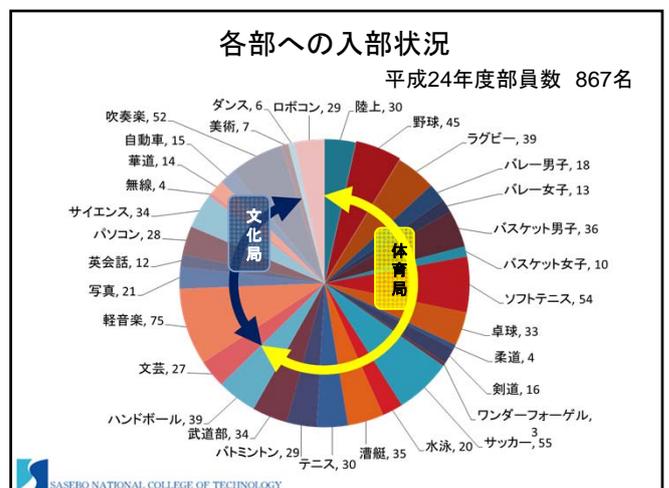
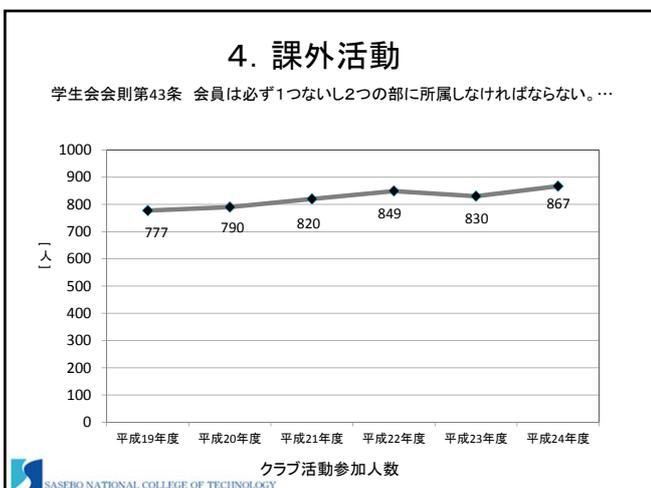
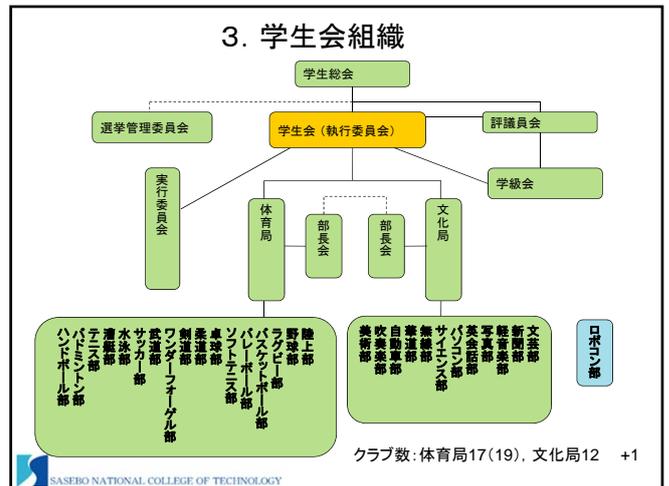


九州地区高専体育大会

(H20.7.12,13,18-20, 11.15-18)



(4) 学生指導・生活指導について(学生主事)



(4) 学生指導・生活指導について(学生主事)

九州地区高専体育大会でのこれまでの成績

九州地区高専大会成績(団体)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
優勝	陸上 野球 バレー男子 バレー女子 バスケット男子	陸上 バレー男子 バレー女子	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 剣道 水泳	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 剣道	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 テニス男子 テニス女子
準優勝	ラグビー 柔道 サッカー テニス	ラグビー 剣道 サッカー		サッカー 水泳 テニス	野球 水泳
3位	ソフトテニス 剣道	バスケット男子 テニス	卓球女子 サッカー テニス	卓球 卓球女子 バドミントン	卓球

九州地区高専大会成績(個人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1位	4	8	14	10	14
2位	15	9	15	8	14
3位	14	13	16	15	8

H24年度の九州沖縄地区高専体育大会成績 (個人戦, オープン競技を除く)

- **団体総合優勝(6競技)**
陸上, ラグビー, バレーボール(男子), バレーボール(女子), ソフトテニス(男子), ソフトテニス(女子)
- **準優勝(2競技)**
野球, 水泳
- **3位(1競技)**
卓球

佐世保高専
 16競技中, 優勝 6競技,
 3位以上 9競技

※競技数は16(バレー, バスケットは男女それぞれ1競技とカウント)
九州沖縄地区の高専数は10

これまでの全国高専体育大会成績

全国高専大会成績(団体)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
優勝	バレー女子	バレー女子	バレー女子	バレー女子	バレー女子
準優勝		バレー男子		バレー女子 剣道 サッカー	陸上
3位	野球 バレー男子		バレー男子 水泳	バレー男子	ラグビー

全国高専大会成績(個人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1位	1	0	2	1	1
2位	1	0	6	4	4
3位	3	4	0	1	3

H24年度の全国高専体育大会成績(団体のみ)

- **優勝**
バレーボール(女子)
- **準優勝**
陸上

バレーボール部(女子)は,
 全国高専大会の過去5大
 会中で**4度の優勝**

ロボコン大会等の成績

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
英語弁論大会九州沖縄地区 ／第1位 英語プレゼンテーションコン テスト全国大会／第2位	プログラミングコンテスト ／敢闘賞	プログラミングコンテスト ／敢闘賞	プログラミングコンテスト ／手選通過	プログラミングコンテスト ／手選通過 九州アンサンブルコンテ スト／銀賞

その他各種大会の主な成績(H20～24年度)

- 英語プレゼンテーションコンテスト全国大会／第2位
- 英語弁論大会九州沖縄地区／第1位
- プログラミングコンテスト／敢闘賞
- 九州アンサンブルコンテスト／銀賞

5. 学生指導

基本方針

- ◆ 『信頼される人格の育成』
モラル・公共心の育成(「校則の遵守」、「環境の美化」など)
マナーの習得(「挨拶・会釈の励行」、「歩行飲食の禁止」など)
『清楚で品のある』身なり(「制服の正しい着用」、「華美な服装を慎む」
など)
- ◆ 『全教職員による学生指導体制の確立』
校則等に関する共通認識
きめ細かな学生指導
- ◆ 『学校の活性化・高度化と地域連携』
各種行事に対する積極的な取り組み
クラブ活動の活性化・高度化
地域連携(高補連、青少年教育センター補導員地区連絡会、各種行
事など)

身なり指導

平成19年度, 1～3年
生の制服を従来の詰襟
学生服から, **ブレザー**
に変更
これを機に身なりに関
する規則を改正した

注意事項

- 指定制服を着用
- 頭髪の脱色や着色(茶髪)は全学年禁止
- 3年以下は、パーマ、ピアス、化粧等は禁止
- 講義は「実習服や体操服」で受講しないこと



(4) 学生指導・生活指導について(学生主事)

その他学生指導

- ◆ 登校時の校門指導
挨拶運動、身なり指導、無許可車両通学のチェック
- ◆ 朝および昼の巡回
学生主事補と厚生補導委員で、校内および学校周辺を巡回
- ◆ 公共交通機関(JRなど)での乗車指導
佐世保地区高等学校補導連絡協議会で、H19・20年度の重点指導項目
- ◆ 交通安全講習会の実施
学生(特に車両通学許可者)に対する交通安全教育
- ◆ 外部講師を招いて各種講演会
制服の着こなし(1年生対象:H20.5.7)
タバコの害(1年生対象:H20.5.28)
薬物乱用防止(2年生対象:H20.6.18)
消費者教育(5年生対象:H21.2.19)

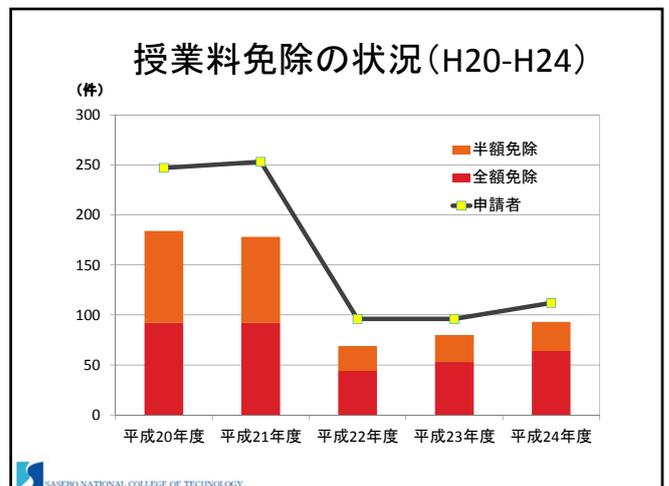
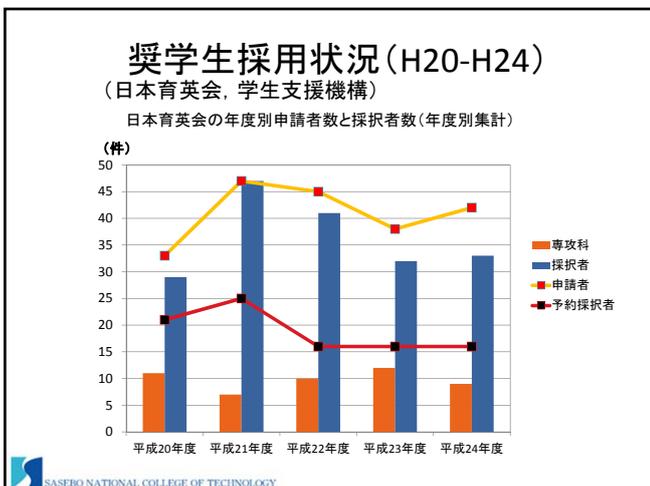
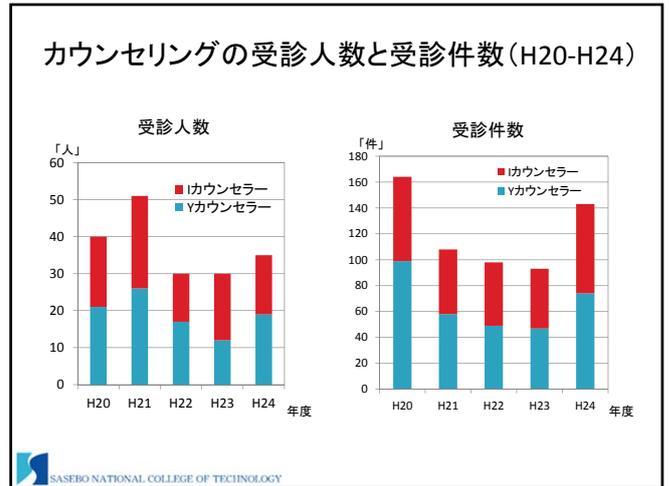
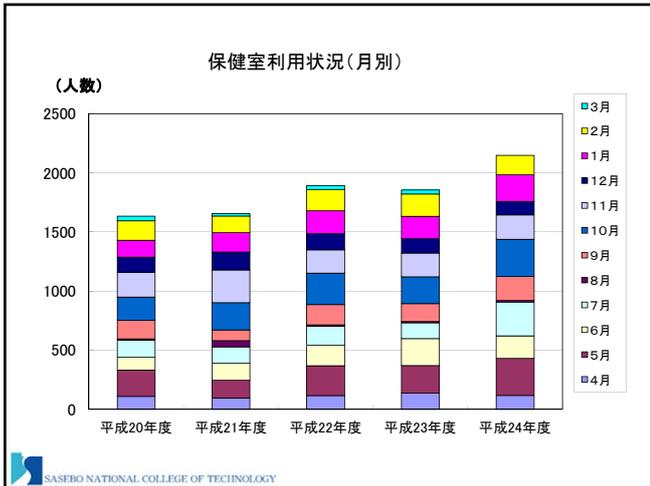


SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

6. 学生支援

- ◆ 学生相談(学生相談室)
 - 構成
学生相談室長 1名
相談員6名(各学科から1名, 保健室の看護師)
 - 外部カウンセラー
2名体制(原則として, 1名は月1回, 1名は月2回来校)
 - 運用体制
保健室が窓口になり, 学生の相談に対応
- ◆ 奨学支援(生活支援係)
授業料免除, 奨学金関係の業務を担当

SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY



(5) 学生の寮生活について(寮務主事)



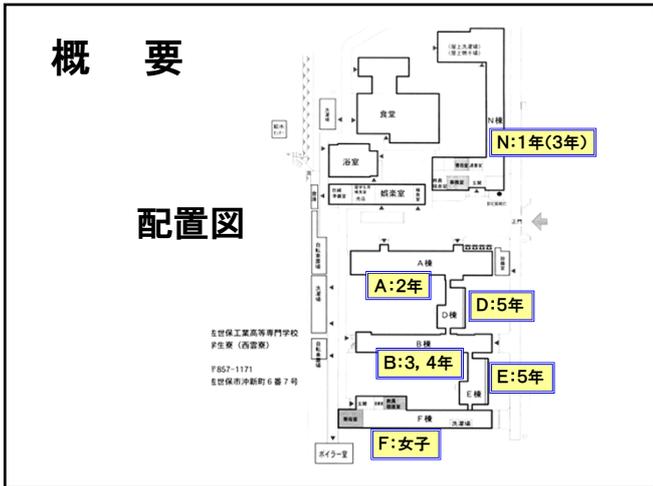
学寮の役割

1. 生活支援

- ★ 通学の利便性 学習・課外活動時間の確保
- ★ 生活費軽減 下宿の半額

2. 生活指導, 教育支援

- ★ 規則正しい生活習慣 日課, マナー
- ★ 自主自立と協調性 2, 3人部屋
- ★ 当直教員, 指導寮生の支援 面談, 学習指導



概要

- ★ 男子1, 2年 ... **全寮制**, 入寮免除有(30%程)
- ★ 男子3年以上&女子 ... **希望者**
- ★ 部屋割: 1・2年-3人, 3・4年-2~3人, 5年-1人

- ### 中期計画
- 1) パソコン室の充実, 教養図書等の充実
 - 2) 省エネ活動、自主的管理
 - 3) 寮生アンケート実施
 - 4) 行事、規則、寮生指導のあり方の見直し
 - 5) 快適な学びと生活の場としての環境整備

日課

起床	7:20
点呼	朝 7:20 1, 2年生集団課業(ラジオ体操)
	夕 20:30
食事	朝 7:25~ 8:30
	昼 12:20~13:05
	夕 18:00~19:30
自習 静粛自習時間	20:30~23:30 21:00~23:00 (静粛自習時間帯は他室訪問禁止)
消灯	1, 2年 23:30
	3年以上 24:00

(5) 学生の寮生活について〔寮務主事〕

日 課

- ★ 点呼は5分前行動を実践
- ★ 1, 2年生の集団課業(ラジオ体操)も遅れることなく実施



朝点呼(上級生)



ラジオ体操(下級生)

寮 費 (月額)

項目	金額(円)	備考	備考
寄宿料	700	個室	部屋代
	800		
寮費	7,200	1, 2年生	光熱水道料 風呂, 暖房 乾燥機他
	7,700		
食費	28,500	30日分	950円/1日
月額合計	36,400	1, 2年生	
	36,900		

寮生数

平成24年度

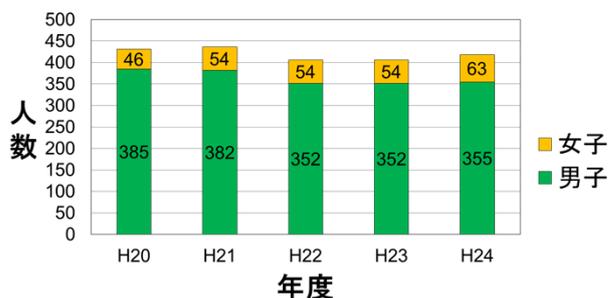
	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計	定員
男	108	90	59	54	44	0	355	390
女	22	10	10	13	8	0	63	80
計	130	100	69	67	52	0	418	470

入寮率	男	91.0%
	女	78.8%
	全体	88.9%

男子の入寮希望者が
30~40名ほど超過

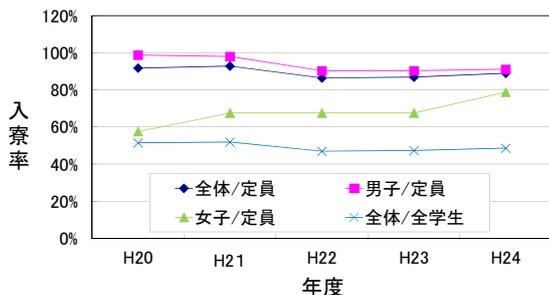
年度別寮生数

年度初めの入寮者数

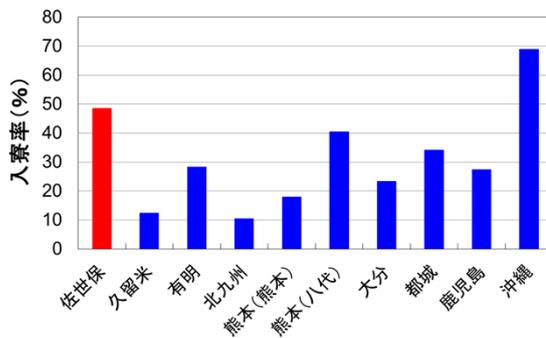


入寮率

年度初めの入寮率



九州地区各高専入寮率(H24)



(5) 学生の寮生活について〔寮務主事〕

教職員の支援体制

- ★寮務教員 …… 7名
- ★事務 …… 2名(係長, 事務補佐員:施設整備)
- ★寮母 …… 2名(男女棟に各1名), 夜8~9時まで
- ★毎日2名の教員が宿直して指導(休日は1名日直)
- ★教員2名による朝, 昼, 夕食の検食
- ★教員の朝・昼居室巡回 …… 遅刻, 病人の把握,
居室点検
- ★夜の居室巡回 …… 勉学指導, カウンセリング

寮生会

- ★寮生会役員(57名)による運営
寮長, 副寮長, 棟長(6), 階長(19)
階長補佐(7), 指導寮生(23)
- ★1, 2年生の点呼立会い
- ★生活・勉学指導
- ★寮祭等の行事企画・実行

施設



施設



施設



行事



(5) 学生の寮生活について(寮務主事)

行事



部屋替(6.9.3月)



夏祭り(H17~中国廈門研修生受入れ)



学寮講演会



近隣幼稚園節分イベント(H17~)

安全対策



入口防犯カメラ(7カ所)



女子棟防犯装置



学寮入口駐車対策

4カ所設置



寮生用金庫

施設改善



A棟前掲示板



渡り廊下



駐輪場(D棟前)



駐輪場(E棟前)

施設改善



エアコン(静養室, 国際交流用)



パソコン



製水機(女子棟)



厨房冷凍庫



A棟小便器(自動水栓)

居室改修

フローリング



改修前

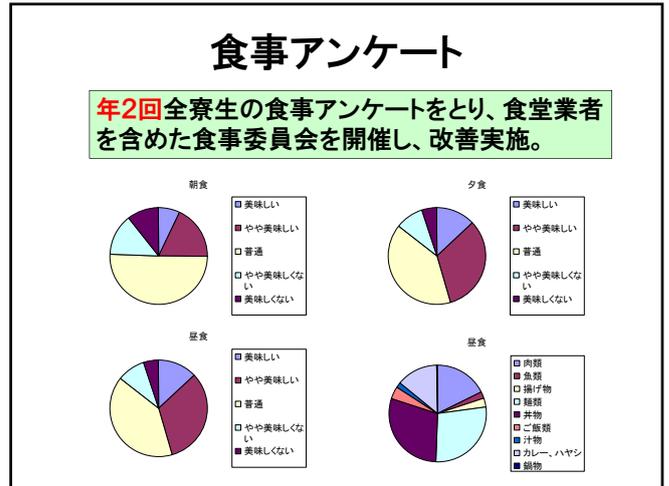
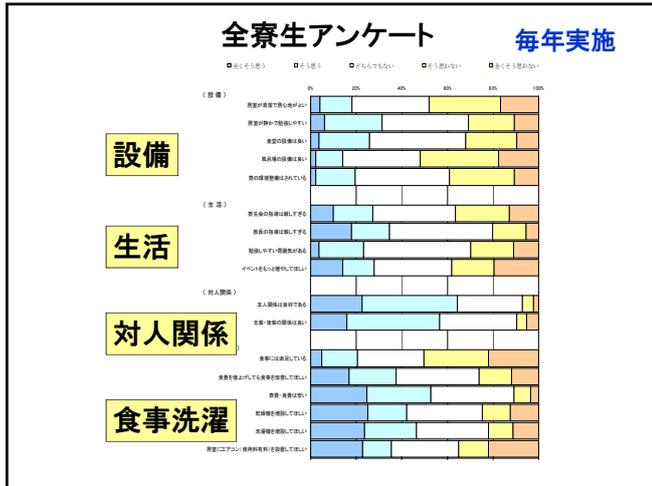


改修後

設備改修・更新関係

H21	F棟改修
	F棟エアコン電源工事 N棟112号室エアコン設置(国際交流用)
H22	B棟2階居室改修
	渡り廊下防滑工事 渡り廊下屋根工事
H23	D棟・E棟前駐輪場整備
	パソコン室パソコン更新
	B棟2階居室改修 男子留学生用浴室改修 A棟小便器自動水栓設置 食堂内部壁紙張替
H24	パソコン室パソコン更新 A棟前掲示板更新 B棟3階居室改修
	F棟を除く全棟エアコン電源工事
	厨房冷凍庫更新
	F棟補食堂製水機更新 静養室エアコン更新
	N棟寮母室エアコン更新

(5) 学生の寮生活について(寮務主事)



節電への取り組み

デマンド計

20:00~20:30電気機器使用制限

N棟	日曜日
A棟	月曜日
B棟	火曜日
D棟・E棟	水曜日
F棟	木曜日

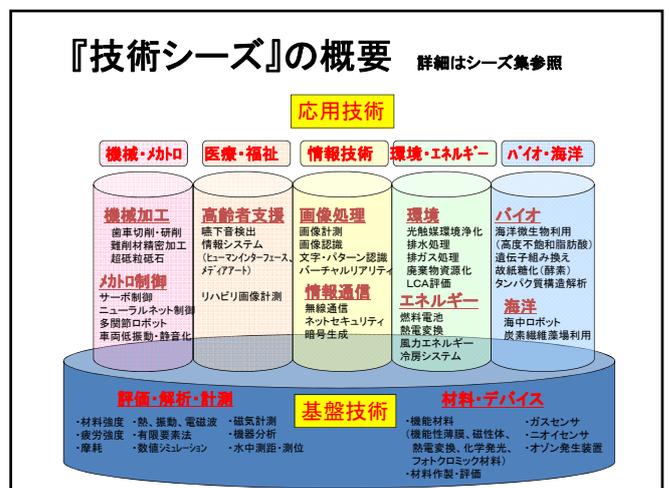
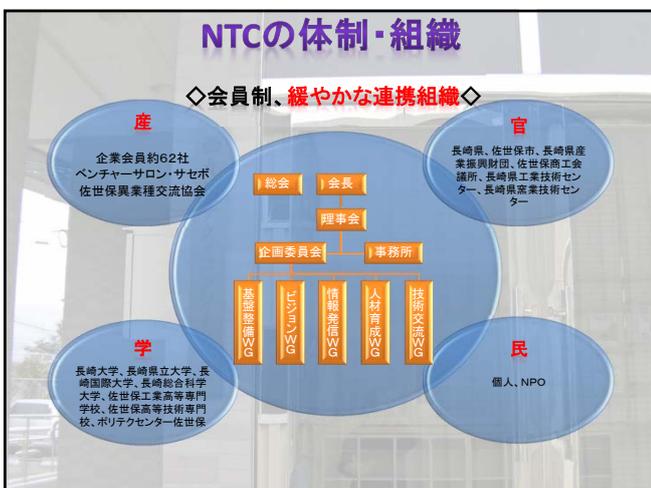
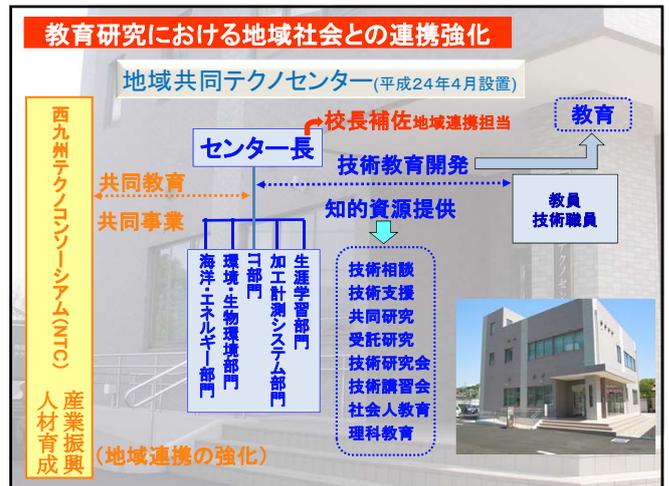
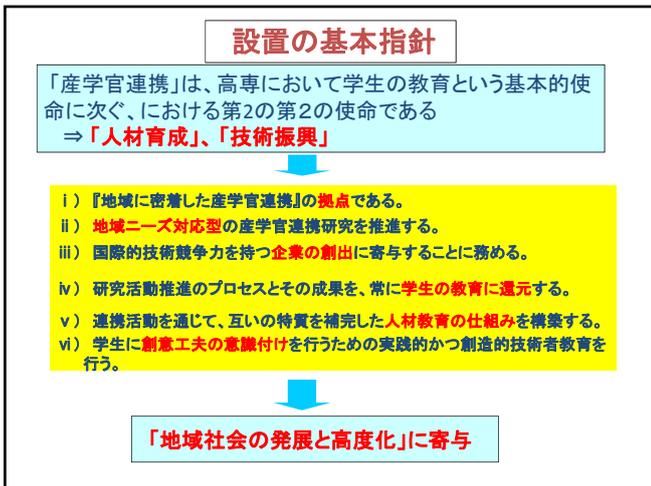
A・B棟自動消灯装置

洗濯室電源タイマー

- ### 学寮改善への取り組み
- ★寮生アンケート ... 年1回 生活全般
 - ★教員アンケート ... 年1回 宿日直および学寮全般
 - ★食事アンケート ... 年2回 食堂委託業者と協議 全教員による30分前の検食
 - ★各行事終了後アンケート ... 寮生会が実施
 - ★寮内設置の意見箱 ... 3個設置
 - ★寮生会と寮務主事室との合同会議 ... 月1回
 - ★寮生会役員と寮務教員による他高専視察 ... 年1回
 - ★西雲寮便り ... 年2回 寮生および保護者に配布
 - ★ホームページ ... 寮生の意見も取り入れながら更新

- ### 今後の課題
- ★耐震改修 ... B棟(H25), N棟(H27予定)
 - ★居室エアコン設置 ... セメスター制にも関連
 - 現在 夏:扇風機のみ
 - 冬:スチーム暖房 ... 配管・機器が老朽化 燃料費, CO₂削減問題
 - リース契約者
 - ★男子浴室エコ給湯化
 - ★自転車管理, 運転・利用マナー
 - ★盗難(4, 5件/年), 寮生間トラブル(2, 3件/年)
 - ★事務職員2名, 寮母2名の確保, 宿日直業務軽減

(6) 社会との連携について(校長補佐(地域連携担当))



(6) 社会との連携について(校長補佐(地域連携担当))

平成24年 テクノセンター・NTCの活動例

- 1. 技術相談**
 技術相談内容 ①LED照明器具制御、②病院のにおい消臭関係、③バイオマスプラスチック、④非常用電源制御回路、⑤木炭利用・臭い分析、⑥ロボットシリンダー制御・PLC利用バルブ制御、⑦次世代EV小型自動車関係、⑧金属疲労、⑨健康住まいのIR関係、⑩ジャンボタニシを活用した農業への活用
- 2. 技術研究会(交流会)・講演会・パネル展示会**
 ①「ものづくり現場改善セミナー」について(佐世保市産業支援センターとの共催)
 日時:平成24年5月9日(水)13:30~16:30
 場所:佐世保高専 多目的教室
 ②環境分野講演会、技術シーズ発表会、パネル展示会の開催
 日時:9月28日(金) 13:00~17:30
 場所:佐世保高専 視聴覚室(附属図書館2階)
 参加者:58名(産19、官14、学24、民1)
 ③組込技術コミュニティ(NET-C研究会)について
 4月17日(火)、5月22日(火)、6月19日(火)、7月24日(火)、8月21日(火)
 9月25日(火)、10月23日(火)、11月20日(火)、12月18日(火)の各日時に行われた。
 …………… 等々 36回

技術相談会

- ①各機関との連携による技術相談等
 長崎県産業労働部各関係課(振興課、技術課、人材課)、(財)長崎県産業振興財団、佐世保市産業支援センター、佐世保商工会議所、佐世保情報産業プラザ等と連携し、技術相談、支援事業の情報提供、セミナー開催案内等を実施
- ②定例的な技術相談日
 7月27日(金)、8月22日(水)、
 9月19日(水)、10月24日(水)、
 11月21日(水)、12月19日(水)
 1月17日(水)、2月21日(水)、
 3月21日(水)



技術相談内容

- ①LED照明器具制御、②病院のにおい消臭関係
 ③バイオマスプラスチック、
 ④非常用電源制御回路、⑤木炭利用・臭い分析、
 ⑥ロボットシリンダー制御・PLC利用バルブ制御、
 ⑦次世代EV小型自動車関係、
 ⑧金属疲労、⑨健康住まいのIR関係、
 ⑩ジャンボタニシを活用した農業への活用
 など

技術研究会(交流会)

- ①「ものづくり現場改善セミナー」について(佐世保市産業支援センターとの共催)
 日時:平成24年5月9日(水)13:30~16:30
 場所:佐世保高専 多目的教室
 ②環境分野講演会、技術シーズ発表会、パネル展示会の開催
 日時:9月28日(金) 13:00~17:30
 場所:佐世保高専 視聴覚室(附属図書館2階)
 参加者:58名(産19、官14、学24、民1)
 ③組込技術コミュニティ(NET-C研究会)について
 4月17日(火)、5月22日(火)、6月19日(火)、7月24日(火)、
 8月21日(火)、9月25日(火)、10月23日(火)、11月20日(火)、
 12月18日(火)の各日時に行われた。

「ものづくり現場改善セミナー」について(佐世保市産業支援センターとの共催)

- 日時:平成24年5月9日(水)13:30~16:30
 場所:佐世保高専 多目的教室
 ①『現場力を経営へ』奥 雅春氏(smart-FOA研究会 代表)
 ②『FOA事例紹介とFOAシステムについて』
 ③『クラウドモデルを使ったFOAデモンストレーション』
 吉澤 隆司氏(株)日立製作所 FOA推進センター長



環境分野講演会、技術シーズ発表会、パネル展示会の開催

- 日時:9月28日(金) 13:00~17:30
 場所:佐世保高専 視聴覚室(附属図書館2階)
 参加者:58名(産19、官14、学24、民1)
 ◎環境分野講演会(13:10~15:15)
 基調講演1「環境ビジネスと国際化について」
 講師:鶴田 暁氏(環境テクノス(株)代表取締役)
 基調講演2「環境に関する今までの業務経験から見えてくること」
 講師:来崎良輝氏(西部環境調査(株)調査部)



(6) 社会との連携について(校長補佐(地域連携担当))

インターンシップ

1. 本科4年生の夏休み期間に、企業経験としてインターンシップを行っている。通常のインターンシップは1～2週間。
2. 上記以外に、4週間～1月以上の期間、地元の企業を中心としてインターンシップを行う「**長期インターンシップ**」を平成23年度より行っている。これは、より密度の濃い交流を通して、本校の学生および担当の教職員が企業の弱点を補えるような、より実践的なインターンシップを行うものである。
3. 平成23年度は4件、平成24年度は2件の長期インターンシップを実行した。

4年生・専攻科生の企業説明会

<地域企業説明会の開催>

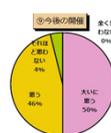
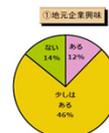
実施日時:12月18日(火) 13:20～16:50

実施場所:佐世保高専 大講義室(企業紹介2分スピーチ)

第一体育館(企業相談会)

参加者:34名36社参加希望があった。

※今年度は高専学生へ地域企業の理解度を高めるため、事前に参加企業の概要説明を学生(本科4年、専攻科1年)へ地域共同テクノセンター長により11月27日(火)、12月4日(火)に2回に分けて行った。



これからの課題

本年度は、地域共同テクノセンターの完成によって、共同研究や相談件数の少しの増加などの成果があった。今後はさらに活発な事業展開が望まれる。

1. 共同研究を、質・量ともに向上させる。
2. 長期インターンシップに力を入れる。
3. 共同開発による製品化を行う。

(7) 広報活動について〔校長補佐(広報担当)〕

広報活動について



広報活動

- ★ 学校教育情報の発信
保護者，一般社会へ
- ★ 学校PR
中学生，小学生，小中学先生，
一般社会，企業，大学

活動項目

1. 広報印刷物
★ 沖新通信 ★ 学校要覧 ★ ポスター
★ パンフレット
2. ホームページ運営管理
3. 広報ビデオ
4. 広報イベント
★ おもしろ実験大公開 ★ 出前授業
5. 看板設置

中期計画

- ① HPIについて，新入生に中学時の利用状況アンケート実施して改善
- ② 一日体験，おもしろ実験大公開等のイベント開催情報の発信(ポスター他)
- ③ 出前授業等地域交流活動 年40件以上
- ④ 広報ビデオの再編集
- ⑤ 外来者用の案内板等の整備

広報印刷物

沖新通信

- ・年2回(7月，3月)
- ・全保護者へ配布
- ・教育活動の報告
- ・①7月：入学
校長，三主事，学科長
専攻科長方針
新1年生紹介，行事予定
イベント紹介，研究紹介
- ・②3月：卒業
卒業生，修了生の声
進路情報，各種活動成果



広報印刷物

学校要覧

- ・年1回(7月)
- ・外部機関，企業等配布
- ・学校の全容紹介
教育理念，沿革，組織
カリキュラム，施設
学生データ(人数，進路)
学校行事，研究，地域連携
国際交流，予算収支



(7) 広報活動について(校長補佐(広報担当))

広報印刷物

ポスター

学校説明会 一日体験入学 おもしろ実験大公開

国立佐世保工業高等専門学校

広報印刷物

パンフレット **中学生用**

30頁 6頁

広報印刷物

パンフレット **企業用**

8頁

ホームページ

- ・最重要な情報発信手段
- ・見やすいデザイン
平成24年4月リニューアル
- ・情報の更新
HPソフト Word Pressへ
- ・新入生アンケート
中学時の利用状況把握
- ・保護者意見箱設置

1年生HPアンケート

中学時に利用した感想

操作簡単か?

とても簡単	1%
まあ簡単	18%
まあ複雑	65%
とても複雑	16%

内容の充実度

とても充実	2%
まあ充実	15%
まあ不足	65%
とても不足	18%

学科情報の充実と更新
H25.4月 再リニューアル
学科HPの統一、「一般科目」新設

関心ある情報

入試情報	75%
進路情報	45%
クラブ活動	35%
授業内容	20%
イベント情報	15%
IPホーン	10%
その他	5%

学科ホームページ

一般科目

H25. 4月 再リニューアル

(7) 広報活動について(校長補佐(広報担当))

HP保護者意見箱

- 平成25年1月運用開始
- 保護者から直接受付
学校の課題, 問題点把握
- メールにて直接回答
実施例あり



広報ビデオ

- 現在の広報ビデオ
平成18年8月完成
学生が製作
- 内容が古くなった
学生服の変更
教職員の退職
- ビデオの一部修正実施
学生服の場面
- 学校説明会で使用




プロによるビデオ新規作成が必要

広報イベント

おもしろ実験大公開

- 平成7年より実施
- 小中学校に週休二日制導入
→ 休日有効利用
- 理科離れ対策
- 当初: 物理・化学系のみ
- 現在: 全教職員(勤務日)
+ 学生(300人)
50テーマ
- 参加者数: 2800人



★ 未来の高専生確保
★ 参加者数: 3000人限界

おもしろ実験大公開







広報イベント

出前授業・出展

- 小中学校や保護者の依頼
- 科学の祭典等出展
- サイエンス・パートナーシップ
プロジェクト
地理的に不利な中学校への理科教育
支援
- 公開講座
- 小中学校教職員対象講座
- 総計 約 50 件/年




★ 技術職員の協力大(15人)
★ 特定教職員への負担大(物理・化学)

看板設置

校舎看板

- 校舎看板
- 横断幕
学校情報, 大会結果
- 道案内標識
- バス停名称変更






H23設置
学寮

(7) 広報活動について(校長補佐(広報担当))

横断幕 **学校概要** **全国高専大会優勝, 国体入賞**

5年一貫教育による専門知識の習得
100%の就職率!! 求人倍率 約2.0倍
平成23年度国立大学等 進学者数70名
国立佐世保工業高等専門学校

第47回(2014)全国高等専門学校体育大会
男女子バレーボール **優勝**
有馬上層 技 **優勝** 横尾太祐 **優勝**

50周年 Anniversary **祝** 2012年 佐世保高専創立50周年
これからも宜しくお願いたします。 **創立50周年**

道案内標識 **H23設置** **大塔インター降口**

卸団地入口 **針尾バイパス終点インター入口**

学内案内板 **H23設置**

記念植樹 **校舎内配置図**
現在計画中
電気物質棟改修後

市営バス停名称変更 **課題**

- 昭和41年に学校が要望し「高専」使用
- 昭和56年から削除(理由不明)
- バス停利用者の多くが本校学生及び来客者(求人企業・大学等数百人)学会
- 「高専祭」「体育祭」「一日体験入学」等イベントに多くの市民が利用
→ 現名称では分かりづらい
- 再度要望書提出(H25.1月)

当初	車体検査場前
昭和41年~不明	車検場・高専前
~昭和56年	陸運事務所・国立高専前
~昭和62年	陸運事務所前
~現在	自動車検査登録事務所前

学校住所: 沖新町1-1

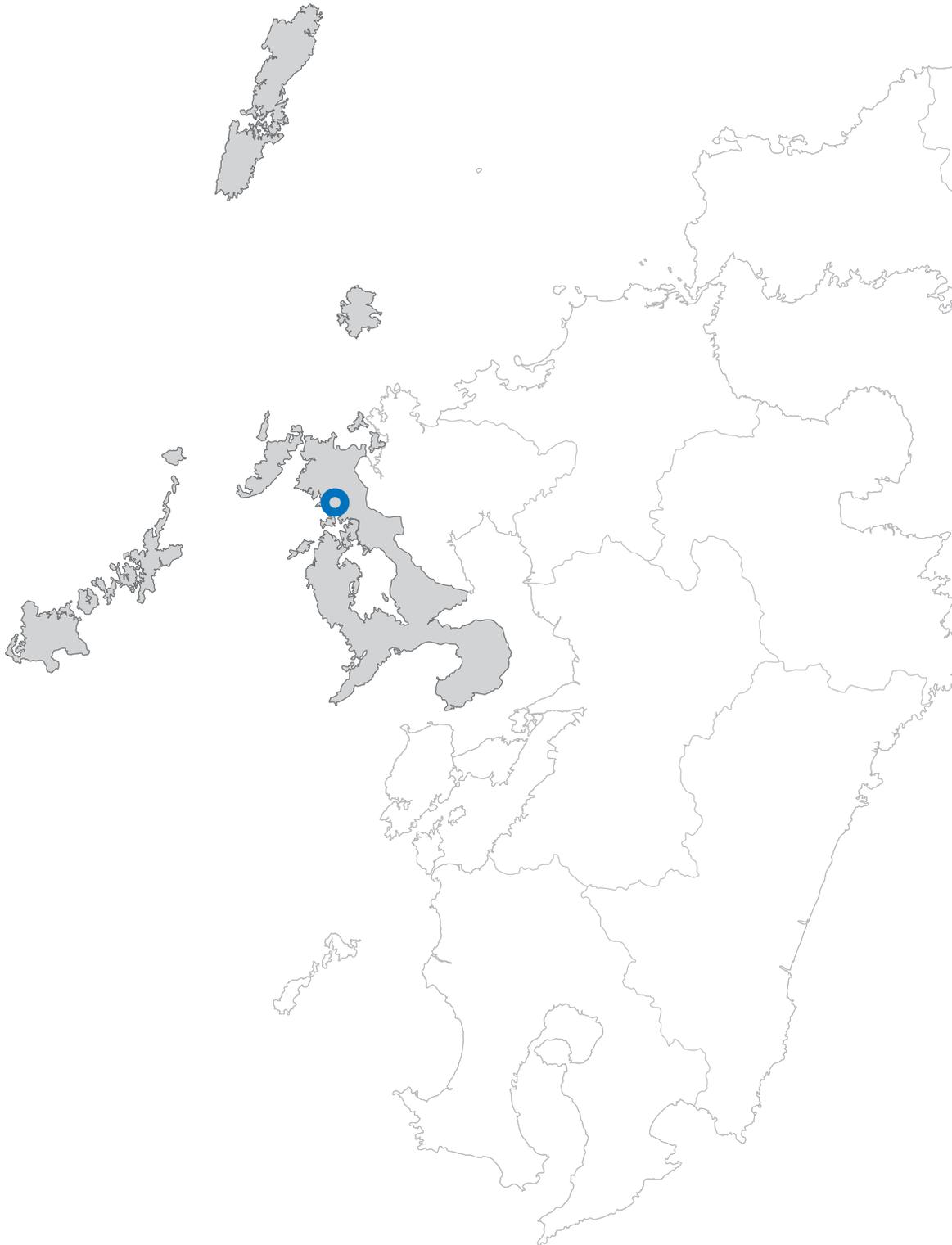
バス行先名: **沖新・高専**

「沖新通債」(学校だより)
「沖新」(同窓会報)

広報効果 **有田町の広報誌に高専入試情報**
有田中より毎年多くの受験者(13人/H23)

今後の課題

- ★ 広報ビデオの新規作成 ... プロ依頼
- ★ ホームページの情報更新(常時)
特に学科情報の更新 ... 各学科対応
- ★ 校舎内配置図の設置 ... 各教室, 実験室, 教員室等
- ★ 出前授業とおもしろ実験来客数の適正数管理
- ★ 学校紹介ブースの設置 ... 来校者へのPR
 - ① 大型モニターで学校紹介・研究紹介, 各種表彰盾等展示
 - ② 待合室, 図書館1F, 掲示板横ピロティー, 正面玄関掲示板付近



■お問い合わせ先

- 発行所：独立行政法人
国立高等専門学校機構
佐世保工業高等専門学校
〒857-1193
長崎県佐世保市沖新町1番1号
- 電話：0956-34-8406（総務課総務係）
- FAX：0956-34-8409（総務課）
- E-mail：s-soumu@sasebo.ac.jp
- URL：http://www.sasebo.ac.jp